

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄								備考
計画の区分		学部の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン ワヨウガクエン 学校法人 和洋学園								
フリガナ大学の名称		ワヨウジョシダイガク 和洋女子大学								
大学本部の位置		千葉県市川市国府台二丁目3番1号								
大学の目的		本大学は教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の趣旨に基づき、広く知識を授けるとともに深く専門の学術技芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の発展と福祉の増進に寄与する有能な女性を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的		さらなる社会の要請に応えるため、多様なキャリアパスを保証すべく文学・家政学を学んだ幅広い知識とスキルを持ち、さまざまな職業に適応できる能力を備え、AIやテクノロジーを活用して活躍できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	AIライフデザイン学部 AIライフデザイン学科	年	人	年次人	人	学士（AIライフデザイン）	文学関係 家政学関係	年 月 第 年次	千葉県市川市国府台二丁目3番1号	
	計	4	80	-	320			令和8年4月 第1年次		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		■収容定員の変更に關わる学則変更（届出省略） 人文学部 日本文学文化学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） 心理学科〔定員増〕（10）（令和8年4月） 国際学部 英語コミュニケーション学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） 国際学科〔定員減〕（△10）（令和8年4月） ■令和8年4月学生募集停止（学科） 家政学部 服飾造形学科（廃止）（△60） 家政福祉学科（廃止）（△110） ■令和7年4月届出予定（学科） 家政学部 生活環境学科（110）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		124単位	
		講義	演習	実験・実習	計					
	AIライフデザイン学部 AIライフデザイン学科	91科目		33科目		11科目	135科目			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	AIライフデザイン学部	人	人	人	人	人	人	人
	AIライフデザイン学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	83 (48)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	12 (12)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	7 (7)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	12 (12)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
	計（a～d）	8 (8)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	13 (13)		
	家政学部	人	人	人	人	人		
	生活環境学科	4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)	11 (11)	81 (56)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	9 (9)	0 (0)	5 (5)	18 (18)			
計	12 (12)	11 (11)	0 (0)	8 (8)	31 (31)	11 (11)		

国際学部 国際学科		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	92 (86)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)				
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)				
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)				
家政学部 健康栄養学科		7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)	13 (13)	79 (81)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)				
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)				
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	7 (9)	1 (2)	0 (0)	5 (5)	13 (16)				
看護学部 看護学科		9 (10)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	29 (30)	7 (7)	76 (76)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 9 人
a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (9)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	28 (29)				
b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	8 (9)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	28 (29)				
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)				
計（a～d）	9 (10)	7 (7)	9 (9)	4 (4)	29 (30)				
計		39 (43)	22 (25)	9 (9)	14 (14)	84 (91)	24 (24)	－ (－)	
合 計		50 (54)	33 (36)	9 (9)	22 (22)	114 (121)	35 (35)	－ (－)	
職 種		専 属			その他		計		
事 務 職 員		46 (51)			69 (64)		115 (115)		
技 術 職 員		2 (2)			3 (3)		5 (5)		
図 書 館 職 員		1 (1)			0 (0)		1 (1)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)			24 (24)		24 (24)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計		49 (54)			96 (91)		145 (145)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	和洋国府台女子 中学・高等学校 （必要面積 13,200㎡）と共 用。（収容定 員：中学360人、 高等学校720人）		
	校 舎 敷 地		9,938 ㎡	34,404 ㎡	4,711 ㎡	49,053 ㎡			
	そ の 他		80,548 ㎡	11,509 ㎡	5,170 ㎡	97,227 ㎡			
	合 計		90,486 ㎡	45,913 ㎡	9,881 ㎡	146,280 ㎡			
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	和洋国府台女子 中学・高等学校 （必要面積6,840 ㎡）と共用。 （収容定員：中 学360人、高等学 校720人）		
			(50,544 ㎡)	(2,757 ㎡)	(1,564 ㎡)	(54,865 ㎡)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室	114室	教 員 研 究 室	13室	大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学全体で の共用分を 含む図書 279,433冊 〔43,618 冊〕 学術雑誌 1,597種 〔379種〕
	AIライフデザイン学 部		775 〔197〕 (775 〔197〕)	677 〔223〕 (677 〔223〕)	18 〔3〕 (18 〔3〕)	18 〔3〕 (18 〔3〕)	0 (0)	0 (0)	
	計		775 〔197〕 (775 〔197〕)	677 〔223〕 (677 〔223〕)	18 〔3〕 (18 〔3〕)	18 〔3〕 (18 〔3〕)	0 (0)	0 (0)	
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体
			6,005㎡		4,053㎡		0㎡		

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	・ 共同研究費等は大学全体の数値 ・ 図書購入費には雑誌、電子ジャーナル、データベース経費を含む	
		教員 1 人当り研究費等		250 千円	250 千円	250 千円	250 千円	一千円	一千円		
		共同研究費等		16, 187 千円	16, 187 千円	16, 187 千円	16, 187 千円	一千円	一千円		
		図 書 購 入 費	71, 620 千円	51, 730 千円	51, 730 千円	51, 730 千円	51, 730 千円	一千円	一千円		
		設 備 購 入 費	40, 000 千円	40, 000 千円	30, 000 千円	20, 000 千円	20, 000 千円	一千円	一千円		
	学生 1 人当り納付金			第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
			1, 479 千円	1, 202 千円	1, 202 千円	1, 202 千円	一千円	一千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入他								
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		和洋女子大学								
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設年度	所 在 地	
	人文学部		年	人	年次人	人		倍		千葉県市川市国府台二丁目3番1号	
	日本文学文化学科		4	110	—	440	学士（文学）	0. 97	平成20年度	※看護学部のみ 千葉県市川市国府台2丁目1番18号さとみ館	
	心理学科		4	60	—	240	学士（文学）	1. 17	平成26年度		
	こども発達学科		4	70	—	280	学士（教育学）	0. 80	平成26年度		
	国際学部							0. 58			
	英語コミュニケーション学科		4	60	—	240	学士（英語コミュニケーション）	0. 53	令和2年度		
	国際学科		4	60	—	240	学士（国際）	0. 63	令和2年度		
	家政学部							0. 79			
	服飾造形学科		4	60	—	240	学士（家政）	0. 66	平成20年度		
	健康栄養学科		4	120	—	480	学士（家政）	1. 09	平成20年度		
	家政福祉学科		4	110	—	440	学士（家政）	0. 54	平成20年度		
	看護学部看護学科		4	100	—	400	学士（看護）	1. 01	平成30年度		
	人文科学研究科							0. 30			
	英語文学専攻（修士課程）		2	5	—	10	修士（文学）	0. 40	平成21年度		
	日本語文学専攻（修士課程）		2	5	—	10	修士（文学）	0. 20	平成21年度		
	総合生活研究科							0. 68			
	総合生活専攻（博士前期課程）		3	8	—	16	修士（家政学）	0. 56	平成21年度		
	看護学研究科		2	3	—	9	博士（学術）又は（家政学）	0. 89	平成21年度		
	看護学専攻（修士課程）		2	6	—	12	修士（看護学）	0. 75	令和6年度		
附属施設の概要			該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(AIライフデザイン学部AIライフデザイン学科)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)			
共通総合科目	基礎教養科目	人文科学系	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア	
			日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア	
			外国の文学	1・2・3・4後			2		○								1		
			ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○								1		
			表現と創作	1・2・3・4後			2		○								1		
			こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア	
			歴史学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア	
			日本の美術	1・2・3・4前			2		○								1		
			西洋の美術	1・2・3・4後			2		○								1	メディア	
			音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○								1		
			音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○								1	メディア	
			手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2				○						2		
			漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2				○						1		
			小計(13科目)	—	—			26		—	—		0	0	0	0	0	14	
	社会科学系	キャリアデザイン	1前・後			2				○							1		
		日本国憲法	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		憲法と人権	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
		国際関係入門	1・2・3・4後			2			○								1	メディア	
		経済の仕組み	1・2・3・4前			2			○								1	メディア	
		社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2			○								2		
		20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2			○								1		
		家族と社会	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		家族と福祉	1・2・3・4前・後			2			○								1	メディア	
		小計(9科目)	—	—			18		—	—		0	0	0	0	0	8		
	生活科学系	ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2					○							2	
		服装の科学	1・2・3・4前			2			○									1	メディア
		ファッションの文化	1・2・3・4後			2			○									1	メディア
		色彩の科学	1・2・3・4前			2			○						1			1	メディア
		健康と食生活	1・2・3・4前			2			○									1	メディア
		住まいとデザイン	1・2・3・4後			2			○									1	メディア
		社会福祉の展望	1・2・3・4後			2			○									1	メディア
		こどもと育児	1・2・3・4前・後			2			○									2	メディア
		生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2			○				1						
		数理と発想	1・2・3・4後			2			○				1						
		看護の知識	1・2・3・4前			2			○									4	オムニバス、メディア
		パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2			○									1	
		AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2			○						2				
	小計(13科目)	—	—			26		—	—		1	0	0	0	2	0	14		
	人間科学系	心理学	1・2・3・4前			2			○				1					1	メディア
		家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2			○									1	メディア
		人間の発達	1・2・3・4前・後			2			○									2	メディア
		生命の科学	1・2・3・4後			2			○									1	
		現代の教育	1・2・3・4前・後			2			○									1	
		文化遺産に学ぶ	1・2・3・4後			2			○									1	メディア
		生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2			○									1	
		女性と美容	1・2・3・4前・後			2			○									2	オムニバス、メディア
		健康の科学	1・2・3・4前・後			2			○					1				2	メディア
スポーツ実習		1・2・3・4前・後			1								1				2	標準外（一部）	
フィットネス実習		1・2・3・4前・後			1						○						2		
小計(11科目)	—	—			20		—	—		1	1	0	0	0	0	13			
海外研修科目	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2				○								1	標準外	
	海外文化研修	1・2・3・4通			2				○								1	標準外	
	小計(2科目)	—	—			4		—	—		0	0	0	0	0	2			
	外国語科目	コミュニケーション英語	1・2・3・4前・後			2				○								3	
英語リーディング		1・2・3・4前・後			2				○								1		
トラベル英語		1・2・3・4前・後			2				○								2		
映画・ドラマで学ぶ英語		1・2・3・4前・後			2				○								2		
基礎から学ぶ英語		1・2・3・4前・後			2			○									1	メディア	
小計(5科目)	—	—			10		—	—		0	0	0	0	0	0	8			
AI・デジタル科目			AI活用入門(理論編)	1前・後			2		○				1						
			AI活用入門(基礎技術編)	1前・後			2		○				1						
			AI活用入門(実践技術編)	1前・後			2		○										
			情報倫理入門	1前・後	○		2		○										
			コンピュータ科学入門	1後	○		2		○					1					
			統計学入門I	1前				2		○									
			統計学入門II	1後				2		○									
			情報通信ネットワーク	1前				2		○					1				
			プログラミング基礎	1前・後	○			2		○									
			情報処理基礎	1前				2		○									
			プログラミング応用	2前				2			○								1
			AI活用とデータベース基礎	2後				2						1					
			AIと倫理	2前	○	2				○			3						
			AI汎用技術論	2後				2		○									1
			造形とコンピュータグラフィックス	2後				2		○			1						
			WebプログラムとWebページ制作	2前				2			○								1
			コンピュータグラフィックス	2前				2		○						1			
			生成AI演習	2後				2			○				1				
			メディアコミュニケーション論	2後	○	2				○			1						
			小計(19科目)	—	—			14	24	—	—		6	1	0	2	0	1	

専門教育科目	専門基礎科目	基礎ゼミ	1前		2					8	2		3			共同 標準外、共同	
		AIライフデザインセミナー	1前		1				○	8	2						
		日本語学特殊演習Ⅰ	3前			2			○								1
		コンピュータグラフィック基礎Ⅰ	1後			2											1
		現代社会におけるストレスマネジメント	2後			2			○								1
		情報化社会における消費者心理学	1後			2			○								1
		コミュニケーションの認知科学	1後			2			○								1
		教育社会学	3前			2			○								1
		ことばのしくみ	2前			2			○								1
		翻訳応用	2後			2			○								1
		英語教育とデジタル技術の活用	2後			2			○								1
		観光のデータ分析	2前			2			○								1
		マーケティング論	2前			2			○								1
		AI翻訳論	2前			2				○							1
		3Dファッション演習	2前			2				○							1
		メタバースファッション表現	2後			2			○								1
		社会変動と家族	2後			2			○								1
		社会保障施策の変遷と展望	2前			2			○								1
		保健統計学	2後			2			○								1
	ライフコースと看護	2前			2			○							13	オムニバス	
健康情報科学基礎	2前・後	○		2			○										
シミュレーション科学基礎	2前	○		2			○			1							
ライフデザインと日本茶	2前			2			○			1							
色彩の科学とデジタル技術	2前			2			○			1							
AIライフデザイン基礎演習	2後	○	2	2				○		8	2		3			オムニバス、共同(一部)	
小計(25科目)	—	—	5	44			—		8	2	0	3	0	28			
専門教育科目	専門応用科目	小児の保健と心理	3前			2			○							共同 標準外、共同	
		映像心理学	2後			2			○								1
		心理学とAI	3後			2			○								1
		ライフリスクの疫学評価	3後	○		2				○							
		健康情報科学解析論	3前			2			○								
		博物館とデジタルアーカイブ	3前			2			○								1
		文化遺産とデジタルコンテンツ	2後	○		2			○								
		地域資料活用特論	3前			2			○								1
		心理学とデータ分析	3前			2			○								
		健康情報科学解析演習	3後			2				○							
		食料資源の科学	3前	○		2			○								
		フードシステム論	3後			2			○								
		ライフデザインと栄養	3前			2			○								1
		食生活とライフデザイン	3後	○		2			○								1
		健康政策とライフデザイン	3前			2			○								
		多変量解析とデータ活用	3後	○		2				○							
		生活科学のための分析ツール	3前	○		2			○								
		シミュレーション科学演習	3後			2				○							
		コンピュータグラフィックス演習	3前・後	○		2				○							
		メディアコミュニケーション演習	3後			2				○							
機能性の評価とデータサイエンス	3前	○		2				○						1			
地域共生とプロジェクトデザイン	3後			2				○									
ことばと社会	2後	○		2			○							1			
言語表現論	3前			2			○							1			
デジタルアーカイブ演習	3後			2				○						1			
AIライフデザイン演習Ⅰ	3前	○	2	2				○		8	2		3				
AIライフデザイン演習Ⅱ	3後	○	2	2				○		8	2		3				
小計(27科目)	—	—	4	50			—		8	2	0	3	0	3			
専門実践科目・実	健康情報科学実践	3前			2										1	共同 標準外、共同	
	ライフデザイン実践実習	2通			1					1							
	メディアデザイン実習	2前			2												
	アプリ開発実習	3後			2										1		
	地方創生プロジェクト実習	4後			2										1		
	データマーケティング実習	4前			2												
小計(6科目)	—	—		11			—		2	2	0	1	0	3			
専門ビジネス	女性とキャリアデザイン	1前			2			○							1	共同 標準外	
	ビジネスマナー	2前			2										1		
	プレゼンテーション	2後			2										1		
	ビジネス・インターンシップ	3通			2										1		
小計(4科目)	—	—		8			—		0	0	0	0	0	4			
卒業研究	卒業研究	4通	○	4				○		8	2	0	3	0	0		
	小計(1科目)	—	—	4			—		8	2	0	3	0	0			
合計(135科目)			—	—	27	241		—		8	2	0	3	0	83		
学位又は称号			学士(AIライフデザイン)			学位又は学科の分野			家政関係、文学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
【AIライフデザイン学部・AIライフデザイン学科】 卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は20単位以上(人文科学系2単位以上・社会科学系2単位以上・生活科学系2単位以上・人間科学系2単位以上・外国語科目2単位以上)、学科において開設される専門教育科目は80単位以上で充たすこととする。学部には1つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要とされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、「AI・デジタル科目」24単位以上(「AI活用入門(理論編)」2単位・「AI活用入門(基礎技術編)」2単位・「AI活用入門(実践技術編)」2単位・「情報倫理入門」2単位・「コンピュータ科学入門」2単位・「AIと倫理」2単位・「メディアコミュニケーション論」2単位必修含)、「専門基礎科目」20単位以上(「基礎ゼミ」2単位・「AIライフデザインセミナー」1単位・「AIライフデザイン基礎演習」2単位必修含)、「専門応用科目」24単位以上(「AIライフデザイン演習Ⅰ」2単位・(「AIライフデザイン演習Ⅱ」2単位必修含)、「専門実習・実践科目」4単位以上、「専門ビジネス科目」4単位以上、「卒業研究」4単位を修得すること。また、他学部の専門教育科目や資格科目の一部が「他学科オープン科目」として全学生に開放され、24単位まで卒業要件として認めることができる。年間の履修単位数の登録の上限は、46単位とする。										1学年の学期区分		2期					
										1学期の授業期間		15週					
										1時限の授業の標準時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文学部 日本文学文化学科 日本文学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員	
和洋アビリティーズ科	キャリアデザイン基礎ゼミ	1前・後 1前		2	2			○		1	2		1		2	標準外・共同 標準外
	パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2		○								2	
基礎教養科目	ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2			○					1		6	標準外
	社会貢献とボランティア	1・2・3・4通			2			○							2	
共通総合科目	インターンシップ	3通			2			○							2	標準外
	AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2		○								1	
基礎教養科目	小計 (7科目)	—	—	2	12	0	—	—	—	1	2	0	1	0	9	標準外
	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○								1	
人文科学系	日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○				1		1		1	メディア
	外国の文学	1・2・3・4後			2		○								1	
人文科学系	ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
	表現と創作	1・2・3・4前・後			2		○								1	
人文科学系	こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	歴史学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
人文科学系	日本の美術	1・2・3・4前			2		○				1					メディア
	西洋の美術	1・2・3・4後			2		○				1					
人文科学系	音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○								1	
人文科学系	手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2			○			1				1	メディア
	漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2			○							1	
基礎教養科目	小計 (13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	3	0	1	0	10	メディア
	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	
社会科学系	憲法と人権	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	国際関係入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
社会科学系	経済の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	
社会科学系	20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	家族と社会	1・2・3・4後			2		○								1	
基礎教養科目	家族と福祉	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	小計 (8科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	
生活科学系	服装の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	ファッションの文化	1・2・3・4前・後			2		○								1	
生活科学系	色彩の科学	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
	健康と食生活	1・2・3・4前・後			2		○								2	
生活科学系	住まいとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	社会福祉の展望	1・2・3・4後			2		○								1	
生活科学系	加齢と高齢者の科学	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
	こどもと育児	1・2・3・4後			2		○								2	
生活科学系	生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	数理と発想	1・2・3・4後			2		○								1	
生活科学系	看護の知識	1・2・3・4前・後			2		○								4	オムニバス・メディア
	ゼロカーボンと持続可能な社会	1・2・3・4前			2		○								3	
基礎教養科目	小計 (12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	15	メディア
	心理の科学	1・2・3・4前			2		○								2	
人間科学系	家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	人間の発達	1・2・3・4前・後			2		○								2	
人間科学系	生命の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	現代の教育	1・2・3・4前・後			2		○				1				1	
人間科学系	文化遺産に学ぶ	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2		○								1	
人間科学系	女性と美容	1・2・3・4前・後			2		○								2	オムニバス・メディア
	健康の科学	1・2・3・4前・後			2		○								3	
人間科学系	スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○						3	共同
	フィットネス実習	1・2・3・4前・後			1				○						3	
基礎教養科目	小計 (11科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	0	1	0	0	0	16	標準外
	小計 (11科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	0	1	0	0	0	16	

修 海 科 外 目 研	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2			○							1	標準外
	海外文化研修	1・2・3・4通			2			○							1	標準外
	小計（2科目）	—	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	2	
外 国 語 科 目	英語a-I	1前		1				○							10	
	英語a-II	1後		1				○							10	
	英語b-I	1前		1				○							7	
	英語b-II	1後		1				○							7	
	日本語a-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語a-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	日本語b-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語b-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	小計（8科目）	—	—	4	4	0		—		0	0	0	0	0	18	
基 盤 科 目	日本文学文化セミナー	1前		1				○		1						標準外
	日本文学文化の基盤Ⅰ	1前			2			○		1						
	日本文学文化の基盤Ⅱ	1後			2			○		1						
	アカデミック・リーディング	1後			2			○		1						
	アカデミック・ライティング	1後			2			○			1					
	日本語の表現Ⅰ	1前			2			○			2					
	日本語の表現Ⅱ	1後			2			○			1		1			
	文学セミナー 上代文学	1前	○		2			○			1			1		
	文学セミナー 中古文学	1後	○		2			○			1					
	文学セミナー 中世文学	1後	○		2			○					1			
	文学セミナー 近世文学	1後	○		2			○		1						
	文学セミナー 漢文学	1前			2			○							1	
	文学セミナー 古典韻文	1前			2			○					1			
	文学セミナー 近代文学	1前後	○		2			○			2					
	文学セミナー 現代文学	1前	○		2			○			1					
	文学セミナー 現代の文化と文学	1後	○		2			○			1					
	文学セミナー 解釈理論	1後	○		2			○		1						
	日本語学概説Ⅰ	2前			2			○							1	
	日本語学概説Ⅱ	2後			2			○							1	
	日本語文法Ⅰ	2前			2			○			1					
	日本語文法Ⅱ	2後			2			○			1					
	古典文学史Ⅰ	2後			2			○			1					
	古典文学史Ⅱ	2後			2			○					1			
	近現代文学史Ⅰ	2前			2			○			1					
	近現代文学史Ⅱ	2後			2			○		1						
	漢文学概説	2後			2			○							1	
	中国書道史Ⅰ	2前			2			○			1					
	中国書道史Ⅱ	2後			2			○			1					
	日本書道史Ⅰ	2前			2			○		1						
	日本書道史Ⅱ	2後			2			○		1						
	書表現（文房四宝）	1前			2			○					1			
	文字学	2後			2			○							1	
	古筆学	2前			2			○		1						
	美術Ⅰ	1前			2			○		1						
	美術Ⅱ	1後			2			○		1						
	身体表現論Ⅰ	2後			2			○							1	
	マスコミジャーナリズム論	1前			2			○							1	
	情報コミュニケーション	1後			2			○							1	
	現代文化論	2前			2			○			1					
	マンガ学	2前			2			○			1					
	古代学Ⅰ	1前			2			○			1					
	古代学Ⅱ	1後			2			○			1					
	古代生活文化Ⅰ	2前			2			○			1					
	古代生活文化Ⅱ	2後			2			○							1	
	博物館概論	2前			2			○							1	
	博物館情報・メディア論	2後			2			○							1	
	小計（46科目）	—	—	1	90	0		—		4	9	0	2	0	8	

専門教育科目	実技演習系基盤科目	日本文学基礎演習Ⅰ	2前	○		2			○			2		1					
		日本文学基礎演習Ⅱ	2後	○		2			○		1	2							
		日本文学基礎演習（漢文）	2前			2			○								1		
		日本文学基礎演習（日本語表現創作）	2前後	○		2			○		2			1					
		日本語学基礎演習Ⅰ	2前	○		2			○			1							
		日本語学基礎演習Ⅱ	2後	○		2			○			1							
		書写Ⅰ	1通			2				○				1					
		書写Ⅱ	1通			2				○				1					
		楷書法	1通			2				○				1					
		かな書法Ⅰ	1通			2				○	1								
		行書法	2通			2				○					1				
		漢字かなまじり書法	2通			2				○							1		
		ファインアート	1前			2			○			1							
		マンガ創作基礎	1後			2			○								1		
		デッサン基礎	1前			1				○		1							
		創作の基礎	1後			1				○		1							
		コンピュータ・アート基礎	2前			2				○		1							
		表現実践演習Ⅰ	2前			2				○								1	
		表現実践演習Ⅱ	2前			2				○			1						
		小計（19科目）		—	—	0	36	0	—			3	7	0	2	0	4		
専門科目		日本文学特殊講義Ⅰ	3前後			2		○				1	1				1		
		日本文学特殊講義Ⅱ	3前後			2		○			1	1		1					
		日本文学特殊講義Ⅲ	4前後			2		○			1	1							
		書誌学Ⅰ	3前			2		○									1		
		書誌学Ⅱ	3後			2		○									1		
		民俗学Ⅰ	3前			2		○									1		
		民俗学Ⅱ	3後			2		○									1		
		有職故実	3前			2		○									1		
		口承文芸	3後			2		○									1		
		日本語史Ⅰ	3前			2		○				1							
		日本語史Ⅱ	3後			2		○				1							
		日本古典文学特殊演習Ⅰ	3前後	○		2			○			1		1					
		日本古典文学特殊演習Ⅱ	3前後	○		2			○		1	1							
		日本近現代文学特殊演習Ⅰ	3前	○		2			○			1							
		日本近現代文学特殊演習Ⅱ	3後	○		2			○			2							
		日本語学特殊演習Ⅰ	3前	○		2			○			1							
		日本語学特殊演習Ⅱ	3後			2			○								1		
		日本語表現創作特殊演習Ⅰ	3前			2			○		1	1							
		日本語表現創作特殊演習Ⅱ	3後			2			○			1							
		草書法	3通			2				○							1		
		書論	3前			2		○									1		
		鑑賞	3後			2			○								1		
		隷書法	3通			2				○			1						
		篆書法	3通			2				○			1						
		かな書法Ⅱ	3通			2				○	1								
		創作かな	4通			2				○	1								
		創作漢字	4通			2				○			1						
		表現特殊演習Ⅰ	3前			2			○				2						
		表現特殊演習Ⅱ	3後			2			○		1								
		歴史文化特殊演習Ⅰ	3前			2			○				1						
		歴史文化特殊演習Ⅱ	3後			2			○				1						
		文化遺産と地域社会	3前			2		○					1						
		博物館資料論	3前			2		○					1						
		博物館展示論	3前			2		○									1		
小計（34科目）		—	—	0	68	0	—			4	8	0	1	0	10				

	論文卒業	卒業論文	4通	○	4			○		4	9		2			標準外
		小計（1科目）	—	—	4	0	0	—		4	9	0	2	0	0	
教職の指導法に関する科目		国語科教育論Ⅰ	2前				2	○			1					
		国語科教育論Ⅱ	2後				2	○			1					
		国語科教育法Ⅰ	3前				2	○			1					
		国語科教育法Ⅱ	3後				2	○			1					
		書道科教育法Ⅰ	3前				2	○					1			
		書道科教育法Ⅱ	3後				2	○					1			
		小計（6科目）	—	—	0	0	12	—		0	1	0	1	0	0	
教職に関連する科目		教育原理（教職）	1前後				2	○							2	
		教職入門	1前				2	○							1	
		教育行政学	2前後				2	○							2	
		教育心理学	1後				2	○							1	
		特別支援教育論	2前後				2	○							1	
		教育課程論	2前後				2	○							2	
		道德教育の指導法	2前後				2	○							1	
		総合的な学習の時間の指導法	3前後				2	○							1	
		特別活動の指導法	3前後				2	○							2	
		教育の方法と技術	2前後				1	○							1	
		教育におけるICT活用	2前後				1	○							1	
		生徒・進路指導論	2前後				2	○							2	
		教育相談	3前後				2	○							2	
		教育実習事前事後指導	4前				1	○							3	
		教育実習	4通				4		○						3	標準外
		教職実践演習（中・高）	4後				2		○						2	
		介護等体験	3通				2		○						3	標準外
		教職セミナー	2通				2		○						4	標準外
		小計（18科目）	—	—	0	0	35	—		0	0	0	0	0	15	
学校図書に関する科目		学校経営と学校図書館	2前				2	○							1	
		学校図書館メディアの構成	2前				2	○							1	
		学習指導と学校図書館	2後				2	○							1	
		読書と豊かな人間性	2後				2	○							1	
		情報メディアの活用	2後				2	○							1	
		小計（5科目）	—	—	0	0	10	—		0	0	0	0	0	2	
司書に関連する科目		生涯学習概論	2前後				2	○							1	
		図書館概論	1前				2	○							1	
		図書館制度・経営論	2前				2	○							1	
		図書館情報技術論	2前				2	○							1	
		図書館サービス概論	1後				2	○							1	
		児童サービス論	2後				2	○							1	
		情報サービス論	2後				2	○							1	
		情報サービス演習A	3前				1		○						1	
		情報サービス演習B	3後				1		○						1	
		図書館情報資源概論	1後				2	○							1	
		情報資源組織論	2後				2	○							1	
		情報資源組織演習A	3前				1		○						1	
		情報資源組織演習B	3後				1		○						1	
		学校経営と学校図書館	2前				2	○							1	
		読書と豊かな人間性	2後				2	○							1	
		図書館情報資源特論	2前				2	○							1	
		図書館総合演習	3後				1		○						1	
		図書館実習	3前				1			○					1	標準外
		小計（18科目）	—	—	0	0	30	—		0	0	0	0	0	8	

博物館学芸員に関連する科目	博物館概論	2前				2	○								1	
	博物館経営論	2後				2	○								1	
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1	
	生涯学習概論	2前後				2	○								1	
	博物館資料論	3前				2	○			1						
	博物館展示論	3前				2	○								1	
	博物館教育論	3後				2	○								1	
	博物館資料保存論	4前				2	○								1	
	博物館実習Ⅰ	4後				1		○							1	
	博物館実習Ⅱ（館務実習）	4前				2		○							3	
小計（10科目）		—	—	0	0	19	—			0	1	0	0	0	5	
合計（218科目）		—	—	11	300	106	—			4	9	0	2	0	100	
学位又は称号		学士（文学）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【人文学部 日本文学文化学科 日本文学専攻】 卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は26単位以上（基礎ゼミ2単位・外国語科目4単位必修含）、学科において開設される専門教育科目は88単位以上で充たすこととする。学部には3つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科および専攻の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要とされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、「基盤科目」において「日本文学文化セミナー」1単位必修、「日本文学文化の基盤Ⅰ」「日本文学文化の基盤Ⅱ」「アカデミック・リーディング」「アカデミック・ライティング」「日本語の表現Ⅰ」「日本語の表現Ⅱ」から4単位以上選択必修、「文学セミナー 上代文学」「文学セミナー 中古文学」「文学セミナー 中世文学」「文学セミナー 近世文学」「文学セミナー 漢文学」「文学セミナー 古典韻文」「文学セミナー 近代文学」「文学セミナー 現代文学」「文学セミナー 現代の文化と文学」「文学セミナー 解釈理論」から16単位以上選択必修、「日本語学概説Ⅰ」「日本語学概説Ⅱ」「日本語文法Ⅰ」「日本語文法Ⅱ」「古典文学史Ⅰ」「古典文学史Ⅱ」「近現代文学史Ⅰ」「近現代文学史Ⅱ」「漢文学概説」から10単位以上選択必修を修得すること。「実技演習系 基盤科目」において「日本文学基礎演習Ⅰ」「日本文学基礎演習Ⅱ」「日本文学基礎演習（漢文）」「日本文学基礎演習（日本語表現創作）」「日本語学基礎演習Ⅰ」「日本語学基礎演習Ⅱ」から8単位以上選択必修を修得すること。「専門科目」において「日本文学特殊講義Ⅰ」「日本文学特殊講義Ⅱ」「日本文学特殊講義Ⅲ」から4単位以上選択必修、「日本古典文学特殊演習Ⅰ」「日本古典文学特殊演習Ⅱ」「日本近現代文学特殊演習Ⅰ」「日本近現代文学特殊演習Ⅱ」「日本語学特殊演習Ⅰ」「日本語学特殊演習Ⅱ」「日本語表現創作特殊演習Ⅰ」「日本語表現創作特殊演習Ⅱ」から6単位以上選択必修、「卒業論文」4単位必修を修得すること。年間の履修単位数の登録の上限は、46単位とする。							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業の標準時間		90分							

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文学部 日本文学文化学科 書道専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員	
和洋アビリティーズ科目	キャリアデザイン基礎ゼミ	1前・後 1前		2	2			○		1	2		1		2	標準外・共同 標準外
	パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2		○								2	
	ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2			○					1		6	
	社会貢献とボランティア	1・2・3・4通			2			○							2	
基礎教養科目	インターンシップ	3通			2			○							2	標準外
	AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	小計 (7科目)	—	—	2	12	0	—	—	—	1	2	0	1	0	9	
	人文科学系															
基礎教養科目	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○				1		1		1	メディア
	外国の文学	1・2・3・4後			2		○								1	
	ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○								1	
基礎教養科目	表現と創作	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	歴史学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	日本の美術	1・2・3・4前			2		○				1					
基礎教養科目	西洋の美術	1・2・3・4後			2		○				1					メディア
	音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
	手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2			○			1				1	
基礎教養科目	漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2			○							1	
	小計 (13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	3	0	1	0	10	
基礎教養科目	社会科学系															メディア
	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	憲法と人権	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	国際関係入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
基礎教養科目	経済の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	家族と社会	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
基礎教養科目	家族と福祉	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	小計 (8科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	
基礎教養科目	生活科学系															メディア
	服装の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	ファッションの文化	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	色彩の科学	1・2・3・4前			2		○								1	
基礎教養科目	健康と食生活	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	住まいとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	社会福祉の展望	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	加齢と高齢者の科学	1・2・3・4前			2		○								1	
基礎教養科目	こどもと育児	1・2・3・4後			2		○								2	メディア
	生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	数理と発想	1・2・3・4後			2		○								1	
	看護の知識	1・2・3・4前・後			2		○								4	オムニバス・メディア
基礎教養科目	ゼロカーボンと持続可能な社会	1・2・3・4前			2		○								3	オムニバス
	小計 (12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	15	
基礎教養科目	人間科学系															メディア
	心理の科学	1・2・3・4前			2		○								2	
	家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2		○								2	
	人間の発達	1・2・3・4前・後			2		○								2	
基礎教養科目	生命の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	現代の教育	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	文化遺産に学ぶ	1・2・3・4前・後			2		○				1				1	メディア
	生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
基礎教養科目	女性と美容	1・2・3・4前・後			2		○								2	オムニバス・メディア
	健康の科学	1・2・3・4前・後			2		○								3	
	スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○						3	共同
	フィットネス実習	1・2・3・4前・後			1				○						3	
基礎教養科目	小計 (11科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	0	1	0	0	0	16	

修 海 科 外 目 研	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2			○							1	標準外
	海外文化研修	1・2・3・4通			2			○							1	標準外
	小計（2科目）	—	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	2	
外 国 語 科 目	英語a-I	1前		1				○							10	
	英語a-II	1後		1				○							10	
	英語b-I	1前		1				○							7	
	英語b-II	1後		1				○							7	
	日本語a-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語a-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	日本語b-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語b-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	小計（8科目）	—	—	4	4	0		—		0	0	0	0	0	18	
専 門 教 育 科 目	日本文学文化セミナー	1前		1				○		1						標準外
	日本文学文化の基盤Ⅰ	1前			2			○		1						
	日本文学文化の基盤Ⅱ	1後			2			○		1						
	アカデミック・リーディング	1後			2			○		1						
	アカデミック・ライティング	1後			2			○			1					
	日本語の表現Ⅰ	1前			2			○			2					
	日本語の表現Ⅱ	1後			2			○			1		1			
	文学セミナー 上代文学	1前			2			○			1					
	文学セミナー 中古文学	1後			2			○			1					
	文学セミナー 中世文学	1後			2			○					1			
	文学セミナー 近世文学	1後			2			○		1						
	文学セミナー 漢文学	1前			2			○							1	
	文学セミナー 古典韻文	1前			2			○					1			
	文学セミナー 近代文学	1前後			2			○			2					
	文学セミナー 現代文学	1前			2			○			1					
	文学セミナー 現代の文化と文学	1後			2			○			1					
	文学セミナー 解釈理論	1後			2			○		1						
	日本語学概説Ⅰ	2前			2			○							1	
	日本語学概説Ⅱ	2後			2			○							1	
	日本語文法Ⅰ	2前			2			○			1					
	日本語文法Ⅱ	2後			2			○			1					
	古典文学史Ⅰ	2後			2			○			1					
	古典文学史Ⅱ	2後			2			○					1			
	近現代文学史Ⅰ	2前			2			○			1					
	近現代文学史Ⅱ	2後			2			○		1						
	漢文学概説	2後			2			○							1	
	中国書道史Ⅰ	2前	○	2				○			1					
	中国書道史Ⅱ	2後	○	2				○			1					
	日本書道史Ⅰ	2前	○	2				○		1						
	日本書道史Ⅱ	2後	○	2				○		1						
	書表現（文房四宝）	1前	○	2				○					1			
	文字学	2後			2			○							1	
	古筆学	2前			2			○		1						
	美術史Ⅰ	1前			2			○		1						
	美術史Ⅱ	1後			2			○		1						
	身体表現論Ⅰ	2後			2			○							1	
	マスコミジャーナリズム論	1前			2			○							1	
	情報コミュニケーション	1後			2			○							1	
	現代文化論	2前			2			○			1					
	マンガ学	2前			2			○			1					
	古代学Ⅰ	1前			2			○			1					
	古代学Ⅱ	1後			2			○			1					
	古代生活文化Ⅰ	2前			2			○			1					
	古代生活文化Ⅱ	2後			2			○							1	
	博物館概論	2前			2			○							1	
	博物館情報・メディア論	2後			2			○							1	
	小計（46科目）	—	—	11	80	0		—		4	9	0	2	0	8	

実技演習系 基盤科目	日本文学基礎演習Ⅰ	2前			2			○			1	2		1		
	日本文学基礎演習Ⅱ	2後			2			○			2					
	日本文学基礎演習（漢文）	2前			2			○						1		
	日本文学基礎演習（日本語表現創作）	2前後			2			○			2		1			
	日本語学基礎演習Ⅰ	2前			2			○				1				
	日本語学基礎演習Ⅱ	2後			2			○				1				
	書写Ⅰ	1通	○	2					○				1			
	書写Ⅱ	1通	○	2					○				1			
	楷書法	1通	○	2					○				1			
	かな書法Ⅰ	1通	○	2					○		1					
	行書法	2通	○	2					○				1			
	漢字かなまじり書法	2通			2			○							1	
	表現実践演習Ⅰ	2前			2			○				1			1	
	表現実践演習Ⅱ	2前			2			○								
	小計（14科目）	—	—	10	18	0	—	—	—	—	3	5	0	2	0	3
専門科目	草書法	3通		2					○						1	
	隸書法	3通	○	2					○			1				
	篆書法	3通	○	2					○			1				
	かな書法Ⅱ	3通	○	2					○		1					
	書論	3前		2			○								1	
	鑑賞	3後		2				○							1	
	篆刻・刻字	3通			2				○						1	
	法帖題跋	3前			2		○					1				
	書道研修	3後	○	2					○		1					
	書道特殊演習Ⅰ	3前	○	1					○			1				標準外
	創作漢字	4通	○	2						○			1			
	創作かな	4通	○	2						○		1				
	書道特殊演習Ⅱ	4前	○	1					○			1				標準外
	書道展示演習	4後	○	2					○		1					
	日本語学特殊演習Ⅰ	3前			2				○			1				
	日本語学特殊演習Ⅱ	3後			2				○						1	
	日本文学特殊講義Ⅰ	3前後			2		○					1			1	
	日本文学特殊講義Ⅱ	3前後			2		○			1	1		1			
	日本文学特殊講義Ⅲ	4前後			2		○			1	1					
	日本語史Ⅰ	3前			2		○				1					
	日本語史Ⅱ	3後			2		○				1					
	民俗学Ⅰ	3前			2		○								1	
	民俗学Ⅱ	3後			2		○								1	
	文化遺産と地域社会	3前			2		○				1					
	博物館資料論	3前			2		○				1					
	博物館展示論	3前			2		○								1	
	小計（26科目）	—	—	22	28	0	—	—	—	—	3	6	0	1	0	8
論卒業	卒業論文	4通	○	4				○			4	9		2		標準外
	小計（1科目）	—	—	4	0	0	—	—	—	—	4	9	0	2	0	0
教職の指導法に関する科目	国語科教育論Ⅰ	2前				2	○					1				
	国語科教育論Ⅱ	2後				2	○					1				
	国語科教育法Ⅰ	3前				2	○					1				
	国語科教育法Ⅱ	3後				2	○					1				
	書道科教育法Ⅰ	3前				2	○						1			
	書道科教育法Ⅱ	3後				2	○						1			
	小計（6科目）	—	—	0	0	12	—	—	—	—	0	1	0	1	0	0

教職に関する科目	教育原理（教職）	1前後				2	○								2		
	教職入門	1前				2	○								1		
	教育行政学	2前後				2	○								2		
	教育心理学	1後				2	○								1		
	特別支援教育論	2前後				2	○								1		
	教育課程論	2前後				2	○								2		
	道德教育の指導法	2前後				2	○								1		
	総合的な学習の時間の指導法	3前後				2	○								1		
	特別活動の指導法	3前後				2	○								2		
	教育の方法と技術	2前後				1	○								1		
	教育におけるICT活用	2前後				1	○								1		
	生徒・進路指導論	2前後				2	○								2		
	教育相談	3前後				2	○								2		
	教育実習事前事後指導	4前				1	○								3		
	教育実習	4通				4				○					3	標準外	
教職実践演習（中・高）	4後				2			○						2			
介護等体験	3通				2			○						3	標準外		
教職セミナー	2通				2			○						4	標準外		
	小計（18科目）	—	—	0	0	35	—				0	0	0	0	0	15	
学校図書館に関する科目	学校経営と学校図書館	2前				2	○								1		
	学校図書館メディアの構成	2前				2	○								1		
	学習指導と学校図書館	2後				2	○								1		
	読書と豊かな人間性	2後				2	○								1		
	情報メディアの活用	2後				2	○								1		
	小計（5科目）	—	—	0	0	10	—				0	0	0	0	0	2	
司書に関連する科目	生涯学習概論	2前後				2	○								1		
	図書館概論	1前				2	○								1		
	図書館制度・経営論	2前				2	○								1		
	図書館情報技術論	2前				2	○								1		
	図書館サービス概論	1後				2	○								1		
	児童サービス論	2後				2	○								1		
	情報サービス論	2後				2	○								1		
	情報サービス演習A	3前				1			○						1		
	情報サービス演習B	3後				1			○						1		
	図書館情報資源概論	1後				2	○								1		
	情報資源組織論	2後				2	○								1		
	情報資源組織演習A	3前				1			○						1		
	情報資源組織演習B	3後				1			○						1		
	学校経営と学校図書館	2前				2	○								1		
	読書と豊かな人間性	2後				2	○								1		
	図書館情報資源特論	2前				2	○								1		
	図書館総合演習	3後				1			○						1		
	図書館実習	3前				1				○					1	標準外	
	小計（18科目）	—	—	0	0	30	—				0	0	0	0	0	8	
博物館学芸員に関連する科目	博物館概論	2前				2	○								1		
	博物館経営論	2後				2	○								1		
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1		
	生涯学習概論	2前後				2	○								1		
	博物館資料論	3前				2	○				1				1		
	博物館展示論	3前				2	○								1		
	博物館教育論	3後				2	○								1		
	博物館資料保存論	4前				2	○								1		
	博物館実習Ⅰ	4後				1				○					1		
	博物館実習Ⅱ（館務実習）	4前				2				○					3		
	小計（10科目）	—	—	0	0	19	—				0	1	0	0	0	5	
合計（205科目）		—	—	53	232	106	—				4	9	0	2	0	110	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【人文学部 日本文学文化学科 書道専攻】 卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は26単位以上（基礎ゼミ2単位・外国語科目4単位必修含）、学科において開設される専門教育科目は88単位以上で充たすこととする。学部には3つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科および専攻の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要なとされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、「基盤科目」において「日本文学文化セミナー」1単位必修、「日本文学文化の基盤Ⅰ」「日本文学文化の基盤Ⅱ」「アカデミック・リーディング」「アカデミック・ライティング」「日本語の表現Ⅰ」「日本語の表現Ⅱ」から4単位以上選択必修、「文学セミナー 上代文学」「文学セミナー 中古文学」「文学セミナー 中世文学」「文学セミナー 近世文学」「文学セミナー 漢文学」「文学セミナー 古典韻文」「文学セミナー 近代文学」「文学セミナー 現代文学」「文学セミナー 現代の文化と文学」「文学セミナー 解釈理論」から12単位以上選択必修、「中国書道史Ⅰ」2単位必修、「中国書道史Ⅱ」2単位必修、「日本書道史Ⅰ」2単位必修、「日本書道史Ⅱ」2単位必修、「書表現（文房四宝）」2単位必修を修得すること。「実技演習系 基盤科目」において「書写Ⅰ」2単位必修、「書写Ⅱ」2単位必修、「楷書法」2単位必修、「かな書法Ⅰ」2単位必修、「行書法」2単位必修を修得すること。「専門科目」において「草書法」2単位必修、「隸書法」2単位必修、「篆書法」2単位必修、「かな書法Ⅱ」2単位必修、「書論」2単位必修、「鑑賞」2単位必修、「書道研修」2単位必修、「書道特殊演習Ⅰ」1単位必修、「創作漢字」2単位必修、「創作かな」2単位必修、「書道特殊演習Ⅱ」1単位必修、「書道展示演習」2単位必修、「卒業論文」4単位必修を修得すること。年間の履修単位数の登録の上限は、46単位とする。		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文学部 日本文学文化学科 文化芸術専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員	
和洋アビリーズ科目	キャリアデザイン基礎ゼミ	1前・後 1前		2	2			○	○	1	2		1		2	標準外・共同 標準外
	パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後			2		○								2	
	ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後			2			○					1		6	
	社会貢献とボランティア	1・2・3・4通			2			○							2	
	インターンシップ	3通			2			○							2	
	AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後			2		○								1	標準外
	小計 (7科目)	—		2	12	0	—			1	2	0	1	0	9	
基礎教養科目	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○				1		1		1	メディア
人文科学系	外国の文学	1・2・3・4後			2		○								1	
	ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○								1	
	表現と創作	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	歴史学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	日本の美術	1・2・3・4前			2		○				1					
	西洋の美術	1・2・3・4後			2		○				1					メディア
	音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
	手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2			○			1				1	
	漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2			○							1	
	小計 (13科目)	—		0	26	0	—			0	3	0	1	0	10	
社会科学系	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	憲法と人権	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	国際関係入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	経済の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	家族と社会	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	家族と福祉	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	小計 (8科目)	—		0	16	0	—			0	0	0	0	0	8	
生活科学系	服装の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	ファッションの文化	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
	色彩の科学	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
	健康と食生活	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	住まいとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	社会福祉の展望	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	加齢と高齢者の科学	1・2・3・4前			2		○								1	
	こどもと育児	1・2・3・4後			2		○								2	メディア
	生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	数理と発想	1・2・3・4後			2		○								1	
	看護の知識	1・2・3・4前・後			2		○								4	オムニバス・メディア
	ゼロカーボンと持続可能な社会	1・2・3・4前			2		○								3	オムニバス
	小計 (12科目)	—		0	24	0	—			0	0	0	0	0	15	
人間科学系	心理の科学	1・2・3・4前			2		○								2	メディア
	家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	人間の発達	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
	生命の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	現代の教育	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	文化遺産に学ぶ	1・2・3・4前・後			2		○				1				1	メディア
	生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
	女性と美容	1・2・3・4前・後			2		○								2	オムニバス・メディア
	健康の科学	1・2・3・4前・後			2		○								3	
	スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○						3	共同
	フィットネス実習	1・2・3・4前・後			1				○						3	
	小計 (11科目)	—		0	20	0	—			0	1	0	0	0	16	

修 海 科 外 目 研	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2			○							1	標準外
	海外文化研修	1・2・3・4通			2			○							1	標準外
	小計（2科目）	—		0	4	0		—		0	0	0	0	0	2	
外 国 語 科 目	英語a-I	1前		1				○							10	
	英語a-II	1後		1				○							10	
	英語b-I	1前		1				○							7	
	英語b-II	1後		1				○							7	
	日本語a-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語a-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	日本語b-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語b-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	小計（8科目）	—	—	4	4	0		—		0	0	0	0	0	18	
基 盤 科 目	日本文学文化セミナー	1前		1				○		1						標準外
	日本文学文化の基盤Ⅰ	1前			2			○		1						
	日本文学文化の基盤Ⅱ	1後			2			○		1						
	アカデミック・リーディング	1後			2			○		1						
	アカデミック・ライティング	1後			2			○			1					
	日本語の表現Ⅰ	1前			2			○			2					
	日本語の表現Ⅱ	1後			2			○			1		1			
	文学セミナー 上代文学	1前			2			○			1					
	文学セミナー 中古文学	1後			2			○			1					
	文学セミナー 中世文学	1後			2			○				1				
	文学セミナー 近世文学	1後			2			○		1				1		
	文学セミナー 漢文学	1前			2			○							1	
	文学セミナー 古典韻文	1前			2			○					1			
	文学セミナー 近代文学	1前後			2			○			2					
	文学セミナー 現代文学	1前			2			○			1					
	文学セミナー 現代の文化と文学	1後			2			○			1					
	文学セミナー 解釈理論	1後			2			○		1						
	日本語学概説Ⅰ	2前			2			○							1	
	日本語学概説Ⅱ	2後			2			○							1	
	日本語文法Ⅰ	2前			2			○			1					
	日本語文法Ⅱ	2後			2			○			1					
	古典文学史Ⅰ	2後			2			○			1					
	古典文学史Ⅱ	2後			2			○				1				
	近現代文学史Ⅰ	2前			2			○			1					
	近現代文学史Ⅱ	2後			2			○		1						
	漢文学概説	2後			2			○							1	
	中国書道史Ⅰ	2前			2			○			1					
	中国書道史Ⅱ	2後			2			○			1					
	日本書道史Ⅰ	2前			2			○		1						
	日本書道史Ⅱ	2後			2			○		1						
	書表現（文房四宝）	1前			2			○				1				
	文字学	2後			2			○							1	
	古筆学	2前			2			○		1						
	美術史Ⅰ	1前			2			○		1						
	美術史Ⅱ	1後			2			○		1						
	身体表現論Ⅰ	2後			2			○							1	
	マスコミジャーナリズム論	1前			2			○							1	
	情報コミュニケーション	1後			2			○							1	
	現代文化論	2前			2			○			1					
	マンガ学	2前			2			○			1					
	古代学Ⅰ	1前			2			○			1					
	古代学Ⅱ	1後			2			○			1					
	古代生活文化Ⅰ	2前	○		2			○			1					
	古代生活文化Ⅱ	2後			2			○							1	
	博物館概論	2前			2			○							1	
	博物館情報・メディア論	2後			2			○							1	
	小計（46科目）	—	—	1	90	0		—		4	9	0	2	0	8	

専門教育科目	実技演習系基盤科目	日本文学基礎演習Ⅰ	2前		2			○			1	2		1		
		日本文学基礎演習Ⅱ	2後		2			○			2	2				
		日本文学基礎演習（漢文）	2前		2			○						1		
		日本文学基礎演習（日本語表現創作）	2前後		2			○			2			1		
		日本語学基礎演習Ⅰ	2前		2			○						2		
		日本語学基礎演習Ⅱ	2後		2			○						2		
		書写Ⅰ	1通		2				○					1		
		書写Ⅱ	1通		2				○					1		
		楷書法	1通		2				○					1		
		かな書法Ⅰ	1通		2				○		1					
		行書法	2通		2				○					1		
		漢字かなまじり書法	2通		2				○						1	
		ファインアート	1前	○	2			○				1			1	
		マンガ創作基礎	1後		2			○							1	
		デッサン基礎	1前	○	1				○			1				
		創作の基礎	1後	○	1				○			1				
		コンピュータ・アート基礎	2前		2			○				1				
		表現実践演習Ⅰ	2前		2			○							1	
		表現実践演習Ⅱ	2前		2			○				1				
		小計（19科目）	—	—	0	36	0	—			3	6	0	2	0	6
	専門科目	アニメーション学	3後		2			○				1				
		デジタル・ゲーム学	3後		2			○							1	
		身体表現論Ⅱ	3前		2			○						1		
		現代アート論Ⅰ	3前		2			○				1				
		現代アート論Ⅱ	3後		2			○				1				
		ポピュラーカルチャーⅠ	3前		2			○				1				
		ポピュラーカルチャーⅡ	3後		2			○				1				
		映像文化論	3前		2			○							1	
		マンガ創作応用	3後		1				○						1	
		デッサン応用	3前		1				○			1				
		デザインアート	3後	○	2			○				1				
		コンピュータ・アート応用	3前	○	1				○			1				
		油彩画応用Ⅰ	3前		1				○			1				
		油彩画応用Ⅱ	3後		1				○			1				
		立体造形	3前		1				○						1	標準外
		博物館資料論	3前		2			○				1				
		博物館展示論	3前		2			○							1	
		文化遺産と地域社会	3前	○	2			○				1				
		表現特殊演習Ⅰ	3前	○	2				○			2				
		表現特殊演習Ⅱ	3後	○	2				○		1					
		歴史文化特殊演習Ⅰ	3前		2				○			1				
		歴史文化特殊演習Ⅱ	3後	○	2				○			1				
		日本語表現創作特殊演習Ⅰ	3前		2				○		1	1				
		日本語表現創作特殊演習Ⅱ	3後		2				○			1				
		日本近現代文学特殊演習Ⅰ	3前		2				○			1				
		日本近現代文学特殊演習Ⅱ	3後		2				○			2				
		日本語学特殊演習Ⅰ	3前		2				○			1				
		日本語学特殊演習Ⅱ	3後		2				○						1	
		日本語史Ⅰ	3前		2			○				1				
		日本語史Ⅱ	3後		2			○				1				
		民俗学Ⅰ	3前		2			○							1	
		民俗学Ⅱ	3後		2			○							1	
		有職故実	3前		2			○							1	
		口承文芸	3後		2			○							1	
		小計（34科目）	—	—	0	62	0	—			2	7	0	0	0	10
論卒業文業	卒業論文	4通	○	4				○			4	9		2		標準外
	小計（1科目）	—		4	0	0		—			4	9	0	2	0	0

司書に関連する科目	生涯学習概論	2前後				2	○								1	
	図書館概論	1前				2	○								1	
	図書館制度・経営論	2前				2	○								1	
	図書館情報技術論	2前				2	○								1	
	図書館サービス概論	1後				2	○								1	
	児童サービス論	2後				2	○								1	
	情報サービス論	2後				2	○								1	
	情報サービス演習A	3前				1		○							1	
	情報サービス演習B	3後				1		○							1	
	図書館情報資源概論	1後				2	○								1	
	情報資源組織論	2後				2	○								1	
	情報資源組織演習A	3前				1		○							1	
	情報資源組織演習B	3後				1		○							1	
	学校経営と学校図書館	2前				2	○								1	
	読書と豊かな人間性	2後				2	○								1	
	図書館情報資源特論	2前				2	○								1	
博物館学芸員に関連する科目	図書館総合演習	3後				1		○							1	
	図書館実習	3前				1			○						1	標準外
	小計（18科目）	—		0	0	30	—			0	0	0	0	0	8	
	博物館概論	2前				2	○								1	
	博物館経営論	2後				2	○								1	
	博物館情報・メディア論	2後				2	○								1	
	生涯学習概論	2前後				2	○								1	
	博物館資料論	3前				2	○			1						
	博物館展示論	3前				2	○								1	
	博物館教育論	3後				2	○								1	
合計（189科目）	博物館資料保存論	4前				2	○								1	
	博物館実習Ⅰ	4後				1			○						1	
	博物館実習Ⅱ（館務実習）	4前				2			○						3	
	小計（10科目）	—	—	0	0	19	—			0	1	0	0	0	5	
合計（189科目）		—	—	11	294	49	—			4	9	0	2	0	99	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【人文学部 日本文学文化学科 文化芸術専攻】 卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は26単位以上（基礎ゼミ2単位・外国語科目4単位必修含）、学科において開設される専門教育科目は88単位以上で充たすこととする。学部には3つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科および専攻の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要とされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、「基盤科目」において「日本文学文化セミナー」1単位必修、「日本文学文化の基盤Ⅰ」「日本文学文化の基盤Ⅱ」「アカデミック・リーディング」「アカデミック・ライティング」「日本語の表現Ⅰ」「日本語の表現Ⅱ」から4単位以上選択必修、「文学セミナー 上代文学」「文学セミナー 中古文学」「文学セミナー 中世文学」「文学セミナー 近世文学」「文学セミナー 漢文学」「文学セミナー 古典韻文」「文学セミナー 近代文学」「文学セミナー 現代文学」「文学セミナー 現代の文化と文学」「文学セミナー 解釈理論」から12単位以上選択必修、「美術史Ⅰ」「美術史Ⅱ」「身体表現論Ⅰ」「マスコミジャーナリズム論」「情報コミュニケーション」「現代文化論」「マンガ学」「古代学Ⅰ」「古代学Ⅱ」「古代生活文化Ⅰ」「古代生活文化Ⅱ」「博物館概論」「博物館情報・メディア論」から12単位以上選択必修を修得すること。「実技演習系 基盤科目」において「ファインアート」「マンガ創作基礎」「デッサン基礎」「創作の基礎」「コンピュータ・アート基礎」「表現実践演習Ⅰ」「表現実践演習Ⅱ」から6単位以上選択必修を修得すること。「専門科目」において「アニメーション学」「デジタル・ゲーム学」「身体表現論Ⅱ」「現代アート論Ⅰ」「現代アート論Ⅱ」「ポピュラーカルチャーⅠ」「ポピュラーカルチャーⅡ」「映像文化論」「マンガ創作応用」「デッサン応用」「デザインアート」「コンピュータ・アート応用」「油彩画応用Ⅰ」「油彩画応用Ⅱ」「立体造形」「博物館資料論」「博物館展示論」「文化遺産と地域社会」から6単位以上選択必修、「表現特殊演習Ⅰ」「表現特殊演習Ⅱ」「歴史文化特殊演習Ⅰ」「歴史文化特殊演習Ⅱ」「日本語表現創作特殊演習Ⅰ」「日本語表現創作特殊演習Ⅱ」から8単位以上選択必修、「卒業論文」4単位必修を修得すること。年間の履修単位数の登録の上限は、46単位とする。		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(家政学部 健康栄養学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 (助 手 を 除 く の 教 員)
	和 洋 ア ピ リ テ ィ ー ズ 科	キャリアデザイン 基礎ゼミ	1前・後 1前		2	2			○ ○			2		4		2	標準外・共同 標準外
		パソコンの基礎と応用	1・2・3・4前・後		2	2		○								3	
		ベーシックラーニング	1・2・3・4前・後		2	2			○						7		
		社会貢献とボランティア	1・2・3・4通		2	2			○						2		
		インターンシップ	3通		2	2			○						2		
		AI・データサイエンス基礎	1・2・3・4前・後		2	2			○						1		
		小計 (7科目)	—		2	12	0		—		0	2	0	4	0	9	
	人 文 科 学 系	哲学への誘い	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		日本の文学	1・2・3・4前・後			2		○								3	メディア
		外国の文学	1・2・3・4後			2		○								1	
		ジェンダーと文学	1・2・3・4前			2		○								1	
		表現と創作	1・2・3・4前・後			2		○							1	メディア	
		こんにちの文化	1・2・3・4前・後			2		○							2	メディア	
		歴史学	1・2・3・4前・後			2		○							1	メディア	
		日本の美術	1・2・3・4前			2		○							1		
		西洋の美術	1・2・3・4後			2		○							1	メディア	
		音楽の歴史	1・2・3・4後			2		○							1	メディア	
		音楽の楽しみ	1・2・3・4前			2		○							1	メディア	
		手書き文字の世界	1・2・3・4前・後			2			○						2		
		漢字・かな文字の変遷	1・2・3・4前・後			2			○						1		
		小計 (13科目)	—		0	26	0		—		0	0	0	0	0	14	
	社 会 科 学 系	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		憲法と人権	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		国際関係入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		経済の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
		社会の仕組み	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
		20世紀の日本	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		家族と社会	1・2・3・4後			2		○								1	メディア
		家族と福祉	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		小計 (8科目)	—		0	16	0		—		0	0	0	0	0	8	
	生 活 科 学 系	服装の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		ファッションの文化	1・2・3・4前・後			2		○								1	メディア
		色彩の科学	1・2・3・4前			2		○								1	メディア
		健康と食生活	1・2・3・4前・後			2		○				1		1			メディア
		住まいとデザイン	1・2・3・4後			2		○							1	メディア	
		社会福祉の展望	1・2・3・4後			2		○							1	メディア	
		加齢と高齢者の科学	1・2・3・4前			2		○							1		
		こどもと育児	1・2・3・4後			2		○							2	メディア	
		生活にいかす化学	1・2・3・4前・後			2		○							1		
		数理と発想	1・2・3・4後			2		○							1		
		看護の知識	1・2・3・4前・後			2		○							4	オムニバス・メディア	
		ゼロカーボンと持続可能な社会	1・2・3・4前			2		○							3	オムニバス	
		小計 (12科目)	—		0	24	0		—		0	1	0	1	0	13	
	人 間 科 学 系	心理の科学	1・2・3・4前			2		○								2	メディア
		家族とジェンダー	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
		人間の発達	1・2・3・4前・後			2		○								2	メディア
		生命の科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
		現代の教育	1・2・3・4前・後			2		○								1	
		文化遺産に学ぶ	1・2・3・4前・後			2		○							2	メディア	
		生命と医療の倫理	1・2・3・4後			2		○							1	メディア	
		女性と美容	1・2・3・4前・後			2		○							2	オムニバス・メディア	
		健康の科学	1・2・3・4前・後			2		○							3		
		スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1									3	共同	
		フィ트니스実習	1・2・3・4前・後			1				○ ○					3		
		小計 (11科目)	—		0	20	0		—		0	0	0	0	0	22	

修 海 科 外 目 研	海外語学研修	1・2・3・4前・後			2			○							1	標準外
	海外文化研修	1・2・3・4通			2			○							1	標準外
	小計（2科目）	—		0	4	0		—		0	0	0	0	0	2	
外 国 語 科 目	英語a-I	1前		1				○							10	
	英語a-II	1後		1				○							10	
	英語b-I	1前		1				○							7	
	英語b-II	1後		1				○							7	
	日本語a-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語a-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	日本語b-I	1・2・3・4前			1			○							1	
	日本語b-II	1・2・3・4後			1			○							1	
	小計（8科目）	—	—	4	4	0		—		0	0	0	0	0	18	
家 政 学 部 共 通	家政学概論	1前後		2				○		1			1		11	オムニバス・メディア
	生活文化史A	1前			2			○							2	オムニバス・メディア
	生活文化史B	1後			2			○							1	メディア
	地域生活創造演習	1前後			2			○							4	共同
	小計（4科目）	—		2	6	0		—		1	0	0	1	0	13	
社 会 と 健 康 ・ 環 境	公衆衛生学Ⅰ	1後	○	2				○		1						
	公衆衛生学Ⅱ	2前	○	2				○		1						
	公衆衛生学Ⅲ	4前			2			○		1					1	オムニバス
	小計（3科目）	—		4	2	0		—		1	0	0	0	0	1	
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病 の 成 り 立 ち	解剖生理学Ⅰ	1前	○	2				○		1						
	解剖生理学Ⅱ	1後	○	2				○		1						
	解剖生理学実験	2前	○	1					○	1						
	栄養有機化学	1前			2			○		1						
	生化学Ⅰ	1後	○	2				○		1						
	生化学実験Ⅰ	2前	○	1					○	1						
	生化学Ⅱ	2前			2			○		1						
	生化学実験Ⅱ	2後			1				○	1						
	臨床医学総論	2前	○	2				○		1						
	臨床医学各論Ⅰ	2後			2			○		1						
	臨床医学各論Ⅱ	2後			2			○		1						
	運動生理学	3後			2			○							1	
	運動処方論実習	4前			1				○	1			1			オムニバス
	基礎化学	1前			2			○		1						
	小計（14科目）	—		10	14	0		—		4	0	0	1	0	1	
食 べ 物 と 健 康	食品学Ⅰ	1前	○	2				○		1						
	食品学実験Ⅰ	3後	○	1					○	1						
	食品学Ⅱ	1後	○	2				○		1						
	食品学実験Ⅱ（含加工実習）	4前			1				○						1	
	調理学	1前後	○	2				○		1						
	基礎調理学実習	1後	○	1					○	1						
	調理学実習	2前	○	1					○	1	1					オムニバス
	調理学実験	2後			1				○	1					1	オムニバス
	食品衛生学	1前	○	2				○		1						
	食品衛生学実験	1後	○	1					○	1						
	微生物学	1前			2			○		1						
	食品の加工と貯蔵	3後			2			○							1	
	小計（12科目）	—		12	6	0		—		3	1	0	0	0	2	
基 礎 栄 養 学	基礎栄養学概論	1後			2			○		1						
	基礎栄養学	2前	○	2				○		1						
	栄養学実験	3後	○	1					○	1						
	小計（3科目）	—		3	2	0		—		1	0	0	0	0	0	

応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2前	○	2		○				1						
	応用栄養学Ⅱ	2後			2	○				1						
栄養教育論	応用栄養学実習	2前	○	1						1						
	環境・運動栄養学	3後			2	○						1				
臨床栄養学	スポーツ栄養学演習	4通			2		○			1			1			標準外・共同
	小計（5科目）	—		3	6	0	—			1	2	0	1	0	0	
公衆栄養学	栄養教育論Ⅰ	2後	○	2		○				1						
	栄養教育論Ⅱ	3前	○	2		○				1						
給食経営管理論	実践栄養教育実習	3前後	○	1						1						
	栄養教育論Ⅲ	3後			2	○				1						
総合演習・臨地実習	食育活動実習	4通			1				○		1					標準外
	小計（5科目）	—		5	3	0	—			1	1	0	0	0	0	
給食経営管理論	臨床栄養学総論Ⅰ	2後	○	2		○				1						
	臨床栄養学総論Ⅱ	3前	○	2		○				1						
総合演習・臨地実習	臨床栄養学各論Ⅰ	3後			2	○				1						
	臨床栄養学各論Ⅱ	3後			2	○					1					
総合演習・臨地実習	臨床栄養マネジメント実習	3後	○	1					○	1						
	栄養補給法実習	3前	○	1					○	1						
総合演習・臨地実習	臨床栄養学演習	4通			2		○			1	1				1	標準外
	小計（7科目）	—		6	6	0	—			2	1	0	0	0	1	
給食経営管理論	公衆栄養学Ⅰ	2後	○	2		○					1					
	公衆栄養学Ⅱ	3前			2	○					1					
総合演習・臨地実習	公衆栄養学実習	3後	○	1					○		1					
	国際栄養学	3後			2	○					1					標準外
給食経営管理論	小計（4科目）	—		3	4	0	—			0	2	0	0	0	0	
	給食経営管理論Ⅰ	2前	○	2		○				1						
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅱ	2後			2	○				1						
	実践栄養管理実習	2後	○	1					○				1			
給食経営管理論	給食運営管理実習	2後	○	1					○	1				1		共同
	給食経営管理実習	3後	○	1					○	1				1		共同
給食経営管理論	小計（5科目）	—		5	2	0	—			1	0	0	2	0	0	
総合演習・臨地実習	総合演習Ⅰ	3通			1				○	1	1		2			オムニバス
	総合演習Ⅱ	4通			1				○				2			標準外・オムニバス
総合演習・臨地実習	健康栄養学特論Ⅰ	4前			1				○	9	3		4			標準外・共同
	健康栄養学特論Ⅱ	4前			2		○			7	2		2			オムニバス
総合演習・臨地実習	健康栄養学特論Ⅲ	4後			2		○			7	2		2			標準外・オムニバス
	健康栄養学特論Ⅳ	4後			2		○			4	2		1			標準外・オムニバス
総合演習・臨地実習	校外実習	3後	○	1					○	2			2			標準外・共同
	臨地実習Ⅰ	3後			1				○				2			標準外・共同
総合演習・臨地実習	臨地実習Ⅱ	3後			1				○	2	1		1			標準外・共同
	臨地実習Ⅲ	3後			1				○	1	1		1			標準外・共同
総合演習・臨地実習	臨地実習Ⅳ	3後			1				○	1	1		2			標準外・共同
	小計（11科目）	—		1	13	0	—			10	3	0	4	0	0	
栄養教諭科目・総合研究	学校栄養教育概論	3前			2		○								1	
	食教育指導法	3後			2		○							1		
栄養教諭科目・総合研究	統計情報処理実習	1後	○	1										1		
	栄養情報処理実習	1前	○	1										1		
栄養教諭科目・総合研究	健康栄養セミナー	1前			1			○			1					標準外
	海外栄養学研修	4通			1				○	1						標準外
論文発表	小計（6科目）	—		3	5	0	—			1	1	0	3	0	1	
	卒業論文	4通	○	4				○		10	3		4			標準外
論文発表	小計（1科目）	—		4	0	0	—			10	3	0	4	0	0	

教育に関連する科目	教育原理（教職）	1前後				2	○							2		
	教職入門	1前				2	○							1		
	教育行政学	2前後				2	○							2		
	教育心理学	1後				2	○							1		
	特別支援教育論	2前後				2	○							1		
	教育課程論	2前後				2	○							2		
	道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3後				2	○							3		
	教育の方法と技術	2前後				2	○							1		
	生徒指導論	2後				2	○							1		
	教育相談	3前後				2	○							2		
	栄養教育実習	4通				2			○				1			
	教職実践演習（栄養教諭）	4後				2		○					1			
小計（12科目）		—	—	0	0	24	—			0	0	0	1	0	13	
合計（153科目）		—	—	67	175	24	—			10	3	0	4	0	100	
学位又は称号		学士（家政学）			学位又は学科の分野				家政関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
【家政学部 健康栄養学科】 卒業要件には124単位以上の修得が必要である。全学に共通に開設される共通総合科目は26単位以上（基礎ゼミ2単位・外国語科目4単位必修含）、学科において開設される専門教育科目は80単位以上で充たすこととする。学部には3つの学科が置かれるが、学生は在籍する学科の専門教育科目の履修を進め、当該学科の履修規程に従って卒業に必要とされる単位の修得を進める。 専門教育科目は、「家政学部共通科目」において「家政学概論」2単位必修、「生活文化史A」「生活文化史B」「地域生活創造演習」から4単位以上・「社会・環境と健康」において「公衆衛生学Ⅰ」2単位必修、「公衆衛生学Ⅱ」2単位必修、「公衆衛生学Ⅲ」から4単位以上・「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」において「解剖生理学Ⅰ」2単位必修、「解剖生理学Ⅱ」2単位必修、「解剖生理学実験」1単位必修、「栄養有機化学」「生化学Ⅰ」2単位必修、「生化学実験Ⅰ」1単位必修、「生化学Ⅱ」「生化学実験Ⅱ」「臨床医学総論」2単位必修、「臨床医学各論Ⅰ」「臨床医学各論Ⅱ」「運動生理学」「運動処方論実習」「基礎化学」から10単位以上・「食べ物と健康」において「食品学Ⅰ」2単位必修、「食品学実験Ⅰ」1単位必修、「食品学Ⅱ」2単位必修、「食品学実験Ⅱ（含加工実習）」「調理学」2単位必修、「基礎調理学実習」1単位必修、「調理学実習」1単位必修、「調理学実験」「食品衛生学」2単位必修、「食品衛生学実験」1単位必修、「微生物学」「食品の加工と貯蔵」から12単位以上・「基礎栄養学」において「基礎栄養学概論」「基礎栄養学」2単位必修、「栄養学実験」1単位必修から3単位以上・「応用栄養学」において「応用栄養学Ⅰ」2単位必修、「応用栄養学Ⅱ」「応用栄養学実習」1単位必修、「環境・運動栄養学」「スポーツ栄養学演習」から3単位以上・「栄養教育論」において「栄養教育論Ⅰ」2単位必修、「栄養教育論Ⅱ」2単位必修、「実践栄養教育実習」1単位必修、「栄養教育論Ⅲ」「食育活動実習」から5単位以上・「臨床栄養学」において「臨床栄養学総論Ⅰ」2単位必修、「臨床栄養学総論Ⅱ」2単位必修、「臨床栄養学各論Ⅰ」「臨床栄養学各論Ⅱ」「臨床栄養マネジメント実習」1単位必修、「栄養補給法実習」1単位必修、「臨床栄養学演習」から6単位以上・「公衆栄養学」において「公衆栄養学Ⅰ」2単位必修、「公衆栄養学Ⅱ」「公衆栄養学実習」1単位必修、「国際栄養学」から3単位以上・「給食経営管理論」において「給食経営管理論Ⅰ」2単位必修、「給食経営管理論Ⅱ」「実践栄養管理実習」1単位必修、「給食運営管理実習」1単位必修、「給食経営管理実習」1単位必修から5単位以上・「総合演習・臨地実習」において「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」「健康栄養学特論Ⅰ」「健康栄養学特論Ⅱ」「健康栄養学特論Ⅲ」「健康栄養学特論Ⅳ」「校外実習」1単位必修、「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」「臨地実習Ⅲ」「臨地実習Ⅳ」から1単位以上・「栄養教諭科目・総合研究」において「学校栄養教育概論」「食教育指導法」「統計情報処理実習」1単位必修、「栄養情報処理実習」1単位必修、「健康栄養セミナー」1単位必修、「海外栄養学研修」から3単位以上・「卒業論文」4単位を修得すること。年間の履修単位数の登録の上限は、1・2年生は48単位、3・4年生は44単位とする。							1学年の学期区分				2学期					
							1学期の授業期間				15週					
											1時限の授業の標準時間				90分	

授 業 科 目 の 概 要						
(AIライフデザイン学部AIライフデザイン学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		人 文 科 学 系	哲学への誘い		哲学の基本的な概念や思想について学び、人間の存在、知識、倫理について深く考察する。歴史的な哲学者の考え方を紹介し、現代における哲学の意義を理解することを目指す。これにより、学生は複雑な問題を多角的に考える力を身に付け、大学での専門的な学問に取り組むための基礎を築くことができる。授業は講義形式で進められ、具体例やケーススタディを通じて理解を深める。哲学的な思考を実生活や他の学問分野にも応用できる力を養う。	
			日本の文学		日本の文学における代表的な作家や作品を取り上げ、その時代背景や社会状況を理解する。作品の背景や作家の生涯、作品のテーマや構造等に焦点を当てることで、文学が社会や文化にどのように影響を与え、またどのように影響を受けてきたかを考察する。さらに、学生はディスカッションやレポート提出等を通じて批判的思考力や表現力を養う。最終的には、日本文学の多様な魅力を理解し、その知識を自らの文化的・学術的な探求に活かす力を培うことを目指す。	
			外国の文学		外国や異文化にまつわる体験をした様々な国の作家たちの代表的な文学作品を読み、各国の文化の多様性や異文化体験、または普遍性をどのように文学作品で表現しているか、小説の背景となる歴史や彼らの生涯にも目を向けつつ比較考察する。授業は主に講義形式をとり、論題にそって作品の抜粋を読む。	
			ジェンダーと文学		社会的・文化的な背景、特定の作家などについて概説する講義と、個別の作品の文章の分析を組みあわせて授業を進める。後者については事前に配布する作品の抜粋をもとにして、受講生のグループワークやディスカッションを交えながら理解を深める。また関連する映像作品なども取りあげる。学期後半では英米以外の作品もとりあげ、現代のジェンダーと文学について理解を深める。	
			表現と創作		様々な芸術作品を通じて、異なる表現方法を学び、それらを比較検討する力を養う。授業では、あるテーマに基づいた作品を中心に、その作品の基になった古典作品や他の作家の作品、絵画、映画、音楽などと比較しながら、多様な表現のあり方を味わう。学生は、これらの活動を通じて芸術の魅力を探求し、自らの理解を深める。また、授業の一環としてレポート作成や自分自身の創作活動を行うことで、学生は表現の幅を広げ、自己表現力を向上させることを目指す。	
			こんにちの文化		「こんにちの文化」では現代の文化現象を探求し、理解を深めることを目的とする。ポップカルチャー、メディア、テクノロジー、ジェンダーなどの変化を通じて、社会における現代文化の特徴や影響を分析する。音楽、映画、インターネットなどのメディアを取り上げ、その背景にある意味や文化的な価値を見出す。更に、グローバル化の影響や異文化間の相互作用についても考察し、多様性を尊重する視点を養う。授業では、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、学生同士が意見を交換し、現代の文化について理解を深める。	
			歴史学		特定の時代、地域、文化、または生活をテーマに取り上げ、歴史的な視点から現代の問題を理解することを目指す。多様な歴史資料や文献を用いて、過去の出来事や社会構造を詳しく分析し、そこから得られる知見を現代社会に応用する力を養う。学生が、歴史を一方的な事実の羅列として捉えるのではなく、現代と過去をつなぐ生きた学問として理解できるよう促す。どの時代や地域を扱うかは担当者によって異なるが、共通して歴史的な理解を深め、現代の課題に対する洞察を深めることを目指す。	
			日本の美術		歴史の中で、人々は様々な思いや願いを、その生きた時代と響き合いながら作品として形にしてきた。日本に息づく美の流れを、生み出された背景に思いをはせ読み解き、我が国の美術について考える。画像等の資料を活用し、絵巻物から屏風絵、浮世版画などの絵画表現とともに、仏像彫刻をはじめとする立体や建築の変遷を交えて、大陸の文化の影響と日本独自の文化の興隆、発展を読み解いていく。	
			西洋の美術		様々な民族と国家がつくる時代の流れの中で、ヨーロッパの美術はおびただしい数の名作の開花を見続けてきた。積み上げられてきた西洋美術の研究について知るとともに、作品を通じてその豊かな美の追求を感じ取る。画像等の資料を活用し、絵画をはじめ彫刻・建築等の造形作品を様々な視点でとらえ、西洋美術の様式の興隆、変化を視覚的に読み解き、創作の源泉と表現の底流にあるものを考えていく。	
			音楽の歴史		本授業では、世界の音楽文化とその歴史について考察する。本授業の目的は、音楽史を単なる過去の出来事としてではなく、現在の音楽文化にどのように繋がっているのかを理解することにある。各時代の音楽が持つ特質や文化的・社会的・歴史的背景を深く考察し理解することによって、学生は音楽史を動的に捉えることができるようになる。また、現在の音楽シーンが歴史的な文脈の中でどのように形成されてきたのかを深く理解する力を養う。	

		音楽の楽しみ		この授業では音楽の魅力や多様性を探求し、学生が音楽をより深く理解し楽しむための知識と洞察力を身につけることを目的とする。音楽は人間の歴史や文化を豊かに表現する媒体として、重要な役割を果たしている。授業では、異なる文化や時代における音楽の役割や変遷、異なる音楽ジャンルが持つ特徴や文化・歴史的背景、音楽を鑑賞するための方法等を学ぶ。学生は、個々の好みや感性に合った音楽の楽しみ方やより豊かな音楽鑑賞の手法を身につけることができる。	
		手書き文字の世界		「手書き文字の世界」の授業では、手書き文字の美しさと実用性を探求する。歴史的な書体やさまざまな書の表現方法を学び、伝統的な手書き文字の手法を習得する。さらに書道の歴史や文化的背景を理解しながら作品を手掛けることによって、理論、実技の双方から日本の伝統文化に接する。この授業を通じて、毛筆をはじめとする手書き文字の魅力や再発見し、手書き文字が持つ芸術的価値と文化的意義についても理解を深めることができる。	
		漢字・かな文字の変遷		「漢字・かな文字の変遷」の授業では、漢字、平仮名、片仮名がどのように形成され、発展してきたかのプロセスを概説する。それぞれの文字の歴史的背景や文化的意義を理解するとともに、文字の変遷を理解し、古文書の解読方法や表現方法の変遷も学ぶ。実際の古文書や書跡を教材に、実践的な解説と書写の技術を身につける。この授業を通じて、伝統文化としての漢字・かな文字の表現の奥深さ、歴史的背景と芸術的価値を深く理解することが目指される。	
	社会科学系	キャリアデザイン		前半は「どの様な大学生生活を送るのか」という課題のもと、自身の専攻分野に繋がる学びへの熟知、それに伴う学修計画、また「自分史」作成を介し、自身の人間的成長について考察する。後半は、「社会調査」を通して社会で活躍する人々の現状を理解し、自らのキャリア形成に繋げていく。	
		日本国憲法		日本の基本法である憲法の基本的な構造とその意義について学ぶ。日本国憲法は、1947年に施行され、国の根幹を成す法律である。この憲法は、国民の権利と義務、政府の役割、法律の枠組みなどを定めている。授業では、憲法がどのようにして成立したか、その背景と歴史を理解しつつ、憲法の基本的な原則について学ぶ。また、憲法が現代の日本社会にどのように影響を与えているかを考察する。これにより、学生は日本国憲法の重要性和、その日常生活や社会全体における役割についての理解を深めることができる。	
		憲法と人権		憲法がどのように人権を保護し、保障しているかを学ぶ。授業では、憲法の基本的な構造とその役割を理解し、特に人権に焦点を当てる。憲法は、国民の基本的な権利と自由を保障するための法律であり、政府の権力を制限する役割を果たす。授業では、憲法の成り立ちとその背景を学びながら、人権がどのように憲法によって守られているかを探っていく。また、現代社会において憲法がどのように適用され、人権の保護が実現されているかを考察する。これにより、学生は憲法と人権の関係について深い理解を得ることができ、日常生活や社会全体における人権の重要性を認識することができる。	
		国際関係入門		国際関係に関する基本的な知識や視点・視座を身に付け、考察につなげられることを目的としている。講義では、国家から、国際機構、NGO、企業、個人に至るまで様々なアクターの活動に焦点を当て、その役割と現状を学ぶ。さらにグローバル化や技術革新など現代の国際関係における大きな変化についても取り上げる。これにより、国際社会の複雑な構造と相互作用を理解し、それぞれがどのように協力、競争しながら世界を形作っているかを把握する。これらの学びを踏まえて、現代の国際的な諸問題に対してどのようなアプローチができるのか、グローバルな視野を持って考察する力を培う。	
		経済の仕組み		景気、インフレ・デフレ、円安・円高、金利など、ニュースでよく聞く用語について、解説を覚えるのではなく、その裏側にある仕組みを理解すれば、今後経済がどのように変わっても自分の頭で考えられるようになる。この授業では、ニュースや日常生活からの具体的な事例を通じて、経済学に関心を持つことから始め、マクロ経済学の基本的な内容や用語を理解することを中心にして、経済関連のニュースや社会で起きている出来事について説明できるようになることを到達目標とする。	
		社会の仕組み		社会学の基礎的な分析方法や概念について学びながら、そうした方法に基づいて、社会学が、現代社会のさまざまな現象、問題について、どのような分析・検討を行っている（きた）のかをみていく。具体的には「大学生であること」、「家族」、「働くこと」をはじめとする身近な事例を取り上げる。それらを手がかりとして、社会の仕組みや、それと密接に関わっている自分自身の考え方について反省的に捉え、見直す力を身につけられるようにする。	
		20世紀の日本		1901年から2000年までの日本の歴史において、その後の日本に大きな影響を与えた出来事を選び、その時代背景について詳しく解説する。講義では、その時代に生きた人々の視点から歴史を考察し、出来事がどのように人々の生活や思想に影響を与え、現在の日本社会を形作ったのかを理解する。さらに、20世紀の日本が直面した課題や変革についても探求し、現代に繋がる歴史の流れを総合的に学ぶ。これにより、学生は過去の出来事をより深く理解し、歴史的な視点から現代社会を考察する能力を養う。	

基礎教養科目	家族と社会		この授業では、まず複数の社会の比較を通して、社会と家族、および文化と家族の相互規定性について考察する。次に、近代的社会制度と価値観による家族への影響について概観する。そして最後に、現代における家族の展開を、恋愛、婚姻と夫婦関係、親子関係、家族を取り巻く人間関係の変化、地域社会の変容と家族の関係、などを通して考察する。	
		家族と福祉	現代社会における家族を取り巻く状況の変化、社会福祉の概念、ソーシャルワーク（社会福祉の専門的援助）について説明する。超高齢社会、低所得・貧困、女性の生きづらさにより生じる生活上の問題とそれに対応する福祉制度を解説する。現代社会における家族の主要な生活問題と福祉について考察する。	
	ベーシックラーニング		大学での学びを効果的に進めるために必要な、国語と数学の基礎的な学力を習得することを目的とする。国語では、学術的な文章の読解力や論文作成に不可欠な正確な表現力を養い、学術的なコミュニケーション能力を向上させる。数学では、データ解析や論理的思考力を必要とする大学の授業に対応できるよう、計算力と論理的思考力を高める。これにより、学生は大学での学びを深めるための基礎的な国語力と数学力を身に付け、自信を持って専門的な学問に取り組むことができるようになることを目指す。	
	服装の科学		アパレル業界のICT化と、アパレルCADの使用方法。アパレル製品の品質表示、洗濯等取扱い絵表示、JISサイズ、アパレルの素材、ファッションの歴史。ファッションコーディネートの方法について、ライフスタイル、色彩、素材、アクセサリー、体型カバーの各視点から解説する。また、コーディネートのアイテムについても説明する。	
	ファッションの文化		「ファッション」は美意識の体現方法の1つであると同時に時代を映し出す鏡でもある。オートクチュール後のファッションから、時代を追うごとに変化する身体との関係について考察し、現代に於ける「表現力」として派生しているファッションまでを幅広く捉えて解説する。またファッションと関連の深い映画を解説し、その中に含まれるファッションについて考察する。	
	色彩の科学		「色彩の科学」の授業では、色彩の基礎理論とその科学的原理を学ぶ。色の物理学的な性質や光の波長、色相・彩度・明度の概念を理解し、色彩の生成や混合のメカニズムを探求する。また、色覚の生理学的な仕組みや心理学的な側面も学習し、人間の色の知覚や感情への影響を解明する。さらに、色彩理論や応用分野（デザイン、美術、印刷など）における実践的な活用方法も学ぶ。実験や観察を通じて、色彩に関する科学的な知識と技術を身につけ、色彩に対する理解を深める。	
	健康と食生活		私たちの食生活、特に栄養について理解する。また、健康と栄養の役割、各ライフステージにおける健康と食生活について理解し、自身に必要な食生活の基本を身につける。	
	住まいとデザイン		住宅図面の見方と書き方、住まいの内部空間および外部空間を構成しているもの、日本および海外の住まいの形やデザイン、住まいのユニバーサルデザイン、様々な住宅設備、住まいにおける生活の知恵などについて、基本的な事項を解説する。	
	社会福祉の展望		社会福祉は高齢者や障害者だけにあるのではなく、生きていく中でだれもが遭遇する生活上の困難を解決するための社会政策である。つまり、社会福祉の充実とは、私たちの生活を安定させる重要な基盤であり、そこが揺らぐとたとえ経済が成長していても国民は安心した生活は営めない。つまり、社会福祉はすべての人が安全で、安心して暮らすための装置であり、基本的人権を守るための砦の役割を担っている。そして安定的に社会福祉を供給するには、人々の活発な社会活動、経済活動が不可欠である。経済・社会の活動と社会福祉の両方が、健全に機能するために必要な社会福祉制度のあり方を経済、社会の視点で考える。	
	こどもと育児		産まれてから成人するまでの子どもの成長・発達を様々な側面から理論的に捉え、各発達段階における養育者の関わりについて概説する。その上で、グループワークやペアワークを通じて子どもと養育者の相互作用や、子どもへの具体的な関わり方等について学ぶ。また、虐待や不適切保育など現代の育児や家庭に関わる諸問題について、社会的な要因を踏まえて考察する。その他、近年の子育て支援制度等を概観し、育児に必要な社会的な支援の概要と実態についても併せて学び、その利用法等について検討する。	
	生活にいかす化学		この講義では、化学が日常生活にどのように役立っているかを学ぶ。化学の本質である物質の理解を通じて、身の回りで起こる事象を化学の視点から理解する楽しさを味わう。実物や実験を交えた講義を行い、受講生には実感を持って学習してもらう。化学的な視点で物事を理解することを通じて、化学嫌いの人が化学を好きになることを目指す。具体的には、原子や分子、水、油、高分子、金属、香り、色素、毛髪と化粧品、洗剤、タンパク、糖、酵素、薬などを取り上げ、それぞれの化学的特性や利用法を学ぶ。最新の話題も交えながら、化学が生活にどれだけ密接に関わっているかを実感させる内容となっている。	

共通総合科目

生活科学系

数理と発想		導入として、算数から発展した一般的な数学の問題の解法について考える。続いて、微分、積分、数列、行列、ベクトル、素数、虚数、確率論などから、数学の視点を概観する。また、コンピュータと数学の接点に着目し、行列、ベクトル、虚数などがコンピュータ上での演算ツールとして驚異的な活躍を遂げたことを説く。さらに、コンピュータシミュレーションの考え方、ビッグデータ、機械学習とAIなど新しいデータサイエンスの視点を社会生活と関連付けながら紹介する。	
看護の知識		有史以来ケアという行為を存在してきた。医療・福祉・教育に共通するケアの原理、その専門職業である看護について理解する。看護の目的と看護活動について知り、個人と家族、社会生活において健康生活を送るため看護の知識を活用できるようにする。授業は専門分野の教員によるオムニバス形式とする。 (オムニバス方式／全15回) (26 竹内久美子／6回) 1回 ガイダンス／看護の基本的な考え方 2回 保健医療サービス提供のしくみ 3回 看護における人材育成 9回 看護の実践と展開 10回 発達段階と看護の特徴① 15回 筆記試験とフィードバック (61 寛亮子／3回) 4回 こころの健康とストレス① 5回 こころの健康とストレス② 6回 ストレスが関連するこころの病い (48 河村秋／4回) 7回 地域における健康支援① 8回 地域における健康支援② 11回 発達段階と看護の特徴② 12回 発達段階と看護の特徴③ (91 桑原里実／2回) 13回 療養環境におけるさまざまな繊維① 14回 療養環境におけるさまざまな繊維②	オムニバス方式
パソコンの基礎と応用		現代社会で必要不可欠なコンピュータスキルを習得することを目的とする。授業では、パソコンの基本操作から始め、ファイルの作成・保存・管理などの基本的な操作方法を学ぶ。さらに、Windowsなどのオペレーティングシステムの基本的な使い方を理解し、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本機能を使いこなす方法を習得する。加えて、インターネットの基本的な使い方や電子メールの利用方法、ネット上でのマナーやセキュリティ対策についても学ぶ。学生は大学生活や職場で必要とされる基本的なパソコンスキルを身に付け、自信を持ってデジタルツールを活用できるようになることを目指す。	
AI・データサイエンス基礎		まず、PCの基本操作を、Windows、Officeアプリケーションを使用し、簡単な課題解決を通じて修得する。次に、現代社会において特に重要なリテラシーであるWebの安全な利用については、①セキュリティ上必須な操作の修得、②具体的な犯罪例と回避策の理解、③コミュニケーション上のマナー・モラルの修得、に重点を置く。また、今日の社会に急速に浸透しつつあるデータサイエンスおよびAIについて、そもそもどのようなものかを解説し、知らず知らずに接している高度な情報処理技術の発想と実用例について正しく理解する。さらに、Scratchを使用してプログラミングについても体験する。	
心理学		心理学は、「科学」として人の行動や発達などを扱い、日常生活に幅広く応用されている。本講義では、「心の健康」にかかわる臨床心理学・健康心理学の立場から、「自己理解とストレスマネジメント」、「他者理解と心理的支援」、「ライフキャリアの形成」の3つを主要トピックとして位置づけ、授業を行う。受講生各自が授業内容を実際に大学生活において活用できるように、適宜ワークを交えながら体験的に理解を深められることを目指す。	
家族とジェンダー		「家族とジェンダー」の授業では、家族やジェンダーに関する理論と実践を学ぶ。家族の構造や機能、それに伴う性別役割分業、ジェンダー問題について探求し、文化、慣習など、社会的要因との関連性を理解する。さらに、家庭内の権力関係やコミュニケーションパターン、家族政策の影響、今後の展開などについても考察する。ジェンダー・バイアスに基づく社会的偏見や不平等にも焦点を当て、その解消に向けたアプローチを検討する。現代社会における多様な家族形態やジェンダー・アイデンティティに対する理解を深め、包括的な視点から家族とジェンダーの在り方を考える。	
人間の発達		本講義は、乳幼児の発達（親や周囲の大人との関わり）について、それらが青年期から成人期以降も含めた生涯発達に関係するのか、また、人間の発達を生涯発達の視点からとらえ、人間の胎児期から老年期までの各段階の発達、心理的な特徴と対応について解説する。受講生が人間理解の視点と知識を身につけることを目的とした講義を行う。また心理学を通じて自己理解を深め、よりよい生き方のヒントを説明する。	
生命の科学		本講義では、生物がどのように誕生し、生命の連続性を保ちながらヒトをはじめとする多様な生物へと進化してきたかを学び、生命について考える機会を持つことを目的とする。さらに、細胞の構造や機能、生態系の相互作用、生物多様性の重要性など、生命現象を総合的に理解する。また、最新の研究動向や技術についても学び、生命科学の現代的な課題や未来への展望についても考察する。本授業を通して学生は、生命の本質を深く理解し、科学的な視点から生命を考える力を養うことを目指す。	

	人間科学系	現代の教育		教育の本質と意義、我が国の教育目的の変遷、現代社会と教育の課題を捉えた上で、特に家庭教育と人間形成の重要性、学校教育と学力保障問題、生涯学習社会における教育のあり方と今日的課題について解説する。また、子どもをめぐる諸問題を取り上げ、データや新聞記事資料等も読みながら理解を深められるように解説する。	
		文化遺産に学ぶ		「文化遺産に学ぶ」の授業では、世界各地の文化遺産や歴史的な遺産を通じて、人類の歴史や文化を探究する。遺跡、建築物、芸術作品などの具体的な遺産を取り上げ、その背景や意義、保存活動に関する知識を学ぶ。また、文化遺産の保護や活用に関する国際的な取り組みや倫理規範についても学習し、遺産の持続可能な管理方法についても考察する。さらに、文化遺産が持つ社会的意義や教育的価値についても探究し、現代社会における文化の役割を理解する。この授業を通じて、文化遺産の重要性とその保全・活用の方法について考える。	
		生命と医療の倫理		科学技術の発達により生命観が大きく変化しつつある状況の中、また社会における価値観が多様になりつつある状況の中、人の生命に対する操作はどこまで許されるのか。また、人間を人間たらしめるものは何で、具体的な場面で生命を大切にするととはどのようなことなのか。授業ではこういった問題を考察していく。このことで、学生は、科学技術の進歩と倫理の関係を深く理解し、現代の医療倫理の複雑さに対処するための知識と洞察力を身につける。	
		女性と美容		この講義では、美しく生きるための美容学を多角的に学ぶ。美容は外見を整えることだけでなく、皮膚や毛髪健康、紫外線の影響、美容科学全般について理解することが重要である。具体的には、皮膚と毛髪の構造や機能、紫外線対策、美容製品の基礎知識、アンチエイジング、色彩学、化粧技術、心と皮膚の関係、化粧品開発などを学ぶ。これにより、美容の基礎知識を身につけ、心身ともに美しく生きるための考え方と行動力を養う。講義は具体例や実践的な知識を交えながら進められる。 (オムニバス方式／全15回) (14 金子 健彦／11回) (第1回～11回) 皮膚と毛髪の構造や機能、美容製品の基礎知識、アンチエイジング、色彩学、化粧技術、心と皮膚の関係 (73 佐藤 潔／4回) (第12回～15回) 紫外線と皮膚の関係、化粧品開発	オムニバス方式
		健康の科学		本授業は、健康に関する基本的な知識と理解を深める事を目的とする。具体的には、基本的な栄養学、運動生理学、心理学、疫学、公衆衛生などを学習する。また身体的、精神的、社会的な健康の関係や影響についても学習する。さらにライフスタイルの変化が健康に与える影響や、予防医学の重要性、健康増進のための具体的なアプローチについても探究する。科学的なエビデンスに基づいた健康情報の評価や、自身の健康行動の改善策を考える力を養い、個人およびコミュニティ全体の健康を促進するための知識とスキルを身に付ける事ができるようにする。	
		スポーツ実習		本授業は、仲間と様々なスポーツを実施し、身体を動かす事の心地よさ、仲間とのコミュニケーションを通じて、スポーツの良さを体感する事を目的とする。またスポーツの基本的な技術や知識を身に付けるために、各種目、基本的な技術練習からゲームまで実施する。基礎練習からゲームまで実施する事で、スポーツを通じたコミュニケーション能力やリーダーシップも身に付ける。学生がスポーツの良さを体感する事で、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎を築く事を目指す。	
		フィットネス実習		本授業は、運動によって自身の健康を維持・増進させるための基本的技能と知識を習得する事を目的とし、有酸素運動、筋力トレーニング、柔軟運動、エアロビエクササイズなど、様々な運動を実践する。具体的には、ジョギング、ヨガ、ピラティス、ウェイトトレーニングなどの実施に加えて、心拍数の管理や栄養学の基本知識も学び、総合的な健康管理の方法を身に付ける。運動実施に当たり、個々の体力レベルや目的に合わせたプログラムを組み、学生は自身の進捗をモニタリングしながら運動を進める。生涯にわたって健康的な生活を送るための基礎を築く事を目指す。	
	海外研修科目	海外語学研修		国際共通語としての英語力（特にListeningとSpeakingの能力）を磨くため、長期休暇を利用し、海外提携校で異文化コミュニケーション能力を養い、英語圏の文化と社会にふれ、国際人としての教養を身につける。発前のワークショップは、留学に備えて準備する。	
		海外文化研修		韓国のソウルや各地域の現地文化研修を通して広く韓国の文化を体験し韓国社会を理解する。韓国語基礎の事前学習や現地韓国語実践、韓国語検定試験を想定した総合的学習を行う。韓国の社会文化、歴史、「韓流」と呼ばれる最新トレンドについて現地体験し、日本との関りやグローバル社会における日韓関係について考える。韓国語の実践学習の基本を身につける。	

外国語科目	コミュニケーション英語		今後、国内外を問わず、非日本語話者と英語でコミュニケーションをとる機会がますます増えていくことが予想される。そのため、動画・音声・テキストなどの多様な媒体で提供される英語の情報を収集し、理解する能力が重要となる。さらに、自らも英語で情報を提供する能力が将来的に必要な可能性もある。授業では、様々な題材を用いて、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションといった英語コミュニケーション活動を行う。学生が英語でのコミュニケーション能力を高め、グローバルな視点で物事を考える素地をつくることを目指す。また、他の文化や価値観に対する理解を深めながら、言語（英語）に対する知識を高める。	
	英語リーディング		国際化が進む中で、オンライン・オフラインを問わず英語で情報が提供されることがますます増えている。そのため、さまざまなトピックに関する英語を正確に読み取るスキルが必要となる。授業では、ニュース記事、メール、簡単な物語などの文章を使いながら、英語の読解力と読解スピードを高めるためのスキルを身につける。特に、精読や速読の練習を通じて、異なる読解スタイルを使い分ける力を養う。精読では、詳細について理解する力と内容を整理する力を高め、速読では、多くの情報を短時間で処理する能力を強化する。また、学生はリーディング方略についても学習しながら、読んだ内容について振り返り、自分の意見をまとめる力も養う。	
	トラベル英語		国際化が進む中で、国内外で英語を使う機会が増えている。そのため、異なる文化背景を持つ人々と英語で円滑にコミュニケーションをとる能力がますます重要になっている。文化の違いを理解し、適切な英語表現を身につけることは、良好な英語でのコミュニケーションを促進するために欠かせない。本授業では、外国に旅行しコミュニケーションをとる場面や、日本で外国人旅行者と接する場面を想定し、ロールプレイなどを活用して実践的な英語を使用することによって、適切な英語表現を学ぶ。授業を通じて、英語の表現力だけでなく、異文化コミュニケーション能力も含めた総合的な能力の向上を目指す。	
	映画・ドラマで学ぶ英語		映画とドラマから英語を学ぶことで、日常会話の自然な表現や発音、文化背景を学び、リスニングやスピーキングをより自然な形で身につける事ができるといわれている。そうしたことから、本授業では英語のドラマや映画を用いて、学生が英語の日常会話の自然な表現や発音、語彙、文化背景についての理解を深めることを目指す。さらに、英語の映画やドラマを通して、異文化理解とボライトネスに関しても学習する機会を提供する。リアルなシナリオを通じて、学生は異文化間のコミュニケーションスタイルや英語表現を学び、英語を使った実践的なコミュニケーション能力を養う。	
	基礎から学ぶ英語		英語を学ぶことで、学生はグローバルな視点を持ち、多様な情報源にアクセスできるようになる。英語は国際共通語として学術、ビジネス、技術分野など多岐にわたる場面で使用され、基本的な英語力の習得は将来のキャリアにおいても利点となる。本講義は、そうしたことを踏まえ、英語学習を基礎から学びたい学生を対象とし、英語の基本的な文法や語彙の習得に加え、効果的な学習方法（英語学習ストラテジー）についても講義を行う。具体的には、リーディング、リスニング、スピーキング等の実際の学習活動を通じてその実践力を養い、将来的な英語自律学習の力を培うことを目指す。	
	AI活用入門（理論編）		AIを効果的に活用するための基礎知識とスキルを身につけることを目的とした科目である。現代のデータ駆動型社会において魅力的なライフデザインを構築するために必要不可欠なデータの収集方法、分析方法、可視化方法を学ぶ。さらに、データやAIの利活用に必要な数学やアルゴリズムの基礎について理解を深める。これにより、AIを実現する技術の一つであるデータサイエンスへの理解を深め、今後の学習を円滑に進めるための確固たる基礎力を培う。	
	AI活用入門（基礎技術編）		AIを効果的に活用するために必要なビッグデータを扱うスキルを身につけるための科目である。この科目では、データの収集、処理、蓄積、および加工に関する技術を学ぶ。また、ITセキュリティの基本概念やプログラミングスキルも習得する。これにより、データのライフサイクル全般を理解し、今後の学習を円滑に進めるための確固たる基礎力を培う。この科目を通じて、学生は自らのライフデザインにおいてもデータエンジニアリングの技術を応用し、より豊かなキャリアパスを描くことができるようになる。	
	AI活用入門（実践技術編）		実社会でAIを効果的に活用するための基礎知識と技術を身につけることを目指した科目である。この科目では、まずAIの歴史を振り返り、その進化の過程を理解する。続いて、AIを支える主要な技術である機械学習や深層学習について学ぶ。これらの技術の基本原理やアルゴリズムを習得することで、AIの基盤となる知識を確立する。AI技術の基礎から応用までを網羅的に学ぶことで、学生が未来のライフデザインを描くための確固たる基盤を提供する。	
	情報倫理入門	○	情報社会におけるプライバシー、セキュリティ、知的財産権、デジタルデバイド、フェイクニュースなどの問題に焦点を当て、情報技術の進展とともに生じる倫理的課題を探究する。学生は、技術の利用とその影響について倫理的視点から考察し、社会的責任を理解する力を養う。本講座では、全日本情報学習振興協会が実施する「個人情報保護士認定試験」や、オデッセイコミュニケーションズが実施する「令和のマナー検定」の合格を支援するため、同試験の合格を併せて目標とする。	

A I・デ ジ タル 科 目	コンピュータ科学入門	○	現代社会において豊かなライフデザインを構築するための必須スキルであるコンピュータを活用するための基礎力を養う科目である。コンピュータシステムやネットワークの基本構造と動作原理を学び、2進数などの基礎理論を学ぶ。また、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム（OS）の仕組みを理解し、ネットワーク技術とそれに関連するセキュリティ対策についても学習する。本講座では、IPA「基本情報技術者試験」の合格を支援するため、同試験の合格を併せて目標とする。	
	統計学入門I		こんにちのAI技術の背景にはコンピュータおよびコンピュータネットワークの発展にともなうビッグデータの存在がある。本科目は、ビッグデータの分析に不可欠な統計学の基礎を学ぶ。2変数以上のデータの分析、推測、確率、確率分布、標本分布、推定、仮説検定、カイ二乗検定、線形モデルなど、統計学の必須知識を習得し、今後の学習を円滑に進めるための確固たる基礎力を培う。本科目では、「統計検定3級」レベルの合格を支援するため、同検定の合格を併せて目標とする。	
	統計学入門II		本科目は、AI技術の背景にあるビッグデータの分析に不可欠な統計学の基礎を学ぶ。「統計学入門Ⅰ」の内容を踏まえて、より高度な内容、すなわち、標本調査、データの集計、時系列データの分析、データの散らばり、相関と回帰、確率、確率分布、推測など、統計学の必須知識を習得し、今後の学習を円滑に進めるための基礎力と実践力を培う。本科目では、「統計検定2級」レベルの合格を支援するため、同検定の合格を併せて目標とする。	
	情報通信ネットワーク		インターネットの仕組み、LANやWANの違い、ルーター、スイッチ、モデムなどの基本的なネットワーク機器の役割を学ぶ。IPアドレスやDNSの基礎知識、簡単なネットワーク設定やトラブルシューティング方法、セキュリティの基本概念も紹介する。目的は、日常生活や職場で役立つネットワークの基礎知識を身につけることにある。学生は、情報通信の基本的な仕組みを理解し、ネットワーク環境の構築や問題解決に役立つ実践的なスキルを養う。	
	プログラミング基礎	○	プログラミングの基礎知識とスキルを習得することを目的とした基礎科目として、アルゴリズムの基礎概念、フローチャートの作成方法、問題解決の手法を学ぶ。簡単な演習を通じて、論理的思考力と問題解決能力を養成していく。本講座では、日商プログラミング検定Basicレベルの合格を支援するため、同検定の合格を併せて目標とする。本講により、学生はAI技術の応用に必要な基礎的なプログラミングスキルを身につけ、将来の学びの土台を築くことができる。	
	情報処理基礎		この科目では、日々進化する情報処理技術への対応と、それらを活用した課題解決のスキルを身につける。Microsoft Officeアプリケーションを利用し、文書処理（ワード）、表計算（エクセル）、プレゼンテーション（パワーポイント）を中心に、情報処理の基本的な操作、エクセルのVBAを利用した簡易なプログラミングを学ぶ。さらに、ネットやソーシャルメディア、知的財産権等の情報リテラシーについても触れ、リテラシーレベルの向上に役立てる。	
	プログラミング応用		実際に動作するアプリケーションの開発を通じて、実践的なプログラミング能力を身につける科目である。既存のプラットフォームを利用したプログラミング環境の構築や選定、コーディング、動作テスト、バグフィクスといったプロセスを学ぶ。これにより、実際の開発現場で求められるスキルを習得し、アプリケーションを通じて豊かなライフデザインの構築に役立つ技術を身につける。この科目は、実用的なプログラミング能力を高め、日常生活やキャリアにおいて創造的かつ効率的に問題解決する力を養う。	
	AI活用とデータベース基礎		SNS、ビジネス、地理気象情報、保健医療、健康栄養などのデータ領域と、企業や官公庁などデータ提供者には多様性があり、ビッグデータのフォーマットには独自のフォーマットが存在する。SQLをはじめとするデータベースを入手し取り扱うために求められる基本的な知識と技術がある。個人情報を含むデータベースでは倫理的配慮が求められる。本講義では、データベース管理におけるAIの進展を実例を交えながら、ライフデザイン学に基礎をおいたデータアナリストとしてのデータベースを取り扱う能力を身に着ける。	

AIと倫理		この科目では、AIを生活に組み込む上での責任と倫理を探究する。生成系AIが出力する情報の信頼性を確認する手法や、AIに関連する法律（著作権など）について学ぶ。同時に、急速に進化するAI技術に関与する人材として、新たな技術を継続的に取り入れ続けるための戦略的なアプローチを学ぶ。この科目は、AI技術を使いこなすことを自らの学びに組み込み、ライフデザイン学に基づいて社会にポジティブな影響をもたらすためのスキルを養う。 （オムニバス方式／全15回） （1 鬘谷 要／5回） （第1回～第5回）責任と倫理の探究 このパートでは、AIを生活に組み込む際の倫理的問題と責任について探究する。特に、生成系AIが出力する情報の信頼性をどのように確認するかについて学ぶ。データのバイアスや信頼性の評価方法、AIによる誤情報のリスク管理に加え、AIを使用する際の倫理的配慮と社会的責任についても深く考察する。これにより、学生はAIを利用する際の倫理的な判断力を養う。 （2 高梨 一彦／5回） （第6回～第10回）AIに関連する法律と倫理 このパートでは、AIに関連する法律や規制について学ぶ。特に、著作権やプライバシー保護、データ所有権など、AI技術に関連する法律的側面を詳しく解説する。具体的なケーススタディを通じて、法的リスクを理解し、AI技術を利用する際の法的遵守の重要性と倫理的配慮を学ぶ。これにより、学生は法的に適切かつ倫理的にAI技術を利用するスキルを身に付ける。 （13 豊川 智之／5回） （第11回～第15回）戦略的なアプローチ、倫理、そして犯罪防止 このパートでは、急速に進化するAI技術に対応するための戦略的なアプローチを学ぶ。特に、新たな技術を継続的に取り入れるための方法や、技術革新に対応するための学習戦略、キャリア形成について講義する。また、技術革新に伴う倫理的課題についても考察し、持続可能な社会に向けて責任あるAIの利用方法を学ぶ。さらに、AI技術が悪用される可能性についても議論し、AIを用いた犯罪防止の方法と、その際に生じる倫理的問題について学ぶ。	オムニバス方式
AI汎用技術論		AI、機械学習、ディープラーニングの基本を学び、これらの技術を社会に実装するために必要なプロジェクトの進め方、運用・評価の手法、関連法規、危機管理について学習する。この科目を通じて、AI技術を効果的に活用し、実際のプロジェクトに応用する力を養う。これにより、AIを活用して問題解決や効率化を図り、豊かなライフデザインの構築に役立つスキルを身に付けることを目指す。本科目は一般社団法人日本ディープラーニング協会が実施するG検定の合格を支援するため、同検定の合格を併せて目標とする。	
造形とコンピュータグラフィックス		造形の基本と3Dコンピュータグラフィックス（3D CG）の基礎技術を学び、デジタルアートの基礎を養成する。まず、形の作り方や構図の基本、遠近法を学び、デザインの基礎を理解する。次に、3Dモデリングやテクスチャリング、レンダリングの基本技術を学び、3D CG制作の初歩を習得する。さらに、簡単なアニメーションやインタラクティブメディアの技術にも触れ、学生は様々なデジタル表現手法を学ぶ。これにより、デジタルアートやゲーム、広告など幅広い分野で役立つ基礎的なスキルを身に付けることができる。最終的には、3Dプリンタを使用して自身のデジタルデザインを物理的な形として出力する技術を習得する。	
WebプログラムとWebページ制作		実践的なWeb開発技術を習得する科目である。HTML、CSS、JavaScriptなどの基本的なWeb技術を学び、動的なWebページやインタラクティブなWebアプリケーションの制作方法を身につける。情報を発信するための手段を身につけることで、個人や組織のメッセージを効果的に伝える力を養う。この知識と技術を活用して、現代のデジタル社会において有益な情報を共有し、社会に貢献できる人材になることを目指す。	
コンピュータグラフィックス		PhotoShop、Illustrator、Shade等のグラフィックソフトを用いてコンピュータグラフィックスの基礎を学ぶ。まず、PhotoShopでは解像度や圧縮など画像の取扱いの基礎から、レイヤーによる画像の重ね合わせ、変形・加工、色調の変更、各種エフェクトの習得を目指す。次に、Illustratorではベジェ曲線の修得や文字デザインを中心に学び、簡単な動画作成も経験する。最後に、Shadeで3Dインターフェースを習得し、基礎的な3D描画を体験する。これらの技術を用いて、最終的にはデジタルリーフレットの作成を行う。また、各ツールの基本操作や使い方についても理解を深める。	
生成AI演習		最新の生成AIツールやプラットフォームの使い方を学び、実践的なプロジェクトを通じて応用力を養うことを目的とする。画像生成ツール、テキスト生成ツール、音声生成ツールの使用方法であり、各ツールの基本操作から応用までをカバーする。プログラミングの知識は前提とせず、直感的な操作を重視した演習を行う。学生はプロジェクトを通じて、生成AIを活用したクリエイティブなアイデアの実現方法を学ぶ。最終的には、生成AIを利用して実生活やビジネスの様々な場面での応用力を身につけることを目指す。	

	メディアコミュニケーション論	○	マスメディア、ソーシャルメディア、デジタルメディアといった様々なメディアの特性や役割を理解し、その社会的影響を分析する。メディアがどのように情報を伝達し、世論を形成し、文化や価値観に影響を与えるのかを探究する。また、メディアリテラシーを強化し、情報の信憑性を判断する力を養う。この科目を通じて、メディア環境の変化に適応し、情報社会における主体的なコミュニケーションとしてライフデザイン学に役立つスキルを身につけることを目指す。	
	基礎ゼミ		AIライフデザイン学部で学ぶ大学生としての基本的な心構えを身につけ、大学での学習に欠かせない知識・技能・方法などを主体的・能動的に学ぶことが出来るように学びの基礎を作る。大学での学びの目標、授業への臨み方とノートの取り方、図書館の利用を含む文献検索、課題解決のための方法、日本語力の向上とレポートの書き方、討論や発表の方法、心理学を修得するための学習姿勢と方法、といったことがらを主として扱う。グループ活動を含む能動的な学習を主体とする。	共同
	AIライフデザインセミナー		AIライフデザイン学部で学びを進める際に基本となる態度を身につけるため、人文学ならびに家政学の基本的な学びの手法およびAIの理解と活用について基本的なスタンスを身につけることを含めた導入教育を行う。各専門領域の教員とゼミ形式の演習を通じて高等学校までの学びを踏まえて、身の回りにある事柄とそこに存在する課題を発見すること、その課題についてどのようなアプローチがあり得るのかを教員とともに考え、卒業までの学び全体への動機づけを行う。	共同
	日本語学特殊演習 I		データサイエンスの実践として、ICTを活用した日本語研究を行う。さまざまな日本語資料を電子テキスト化し計量的・統計的に分析する研究手法について、実践を通して学ぶ。受講生の興味に合わせて、調査対象・内容を設定し、調査データ（文献資料、作品、アンケート、音声データ、Web上の言語データ等）を収集、電子テキスト化する。これを用いて、計量的に言語データを分析し、資料の特質や特定表現の使用実態を解明する。受講生の発表と議論を中心に授業を進める。日本語をデータに基づき客観的に分析できること、各種ツールを用いてテキストを計量的・統計的に分析することができること、分析結果を明確にアウトプット（発表・レポート）することができることを目指す。	
	コンピュータグラフィック基礎 I		AI技術の進化により、簡単にデジタルイメージの生成や文章作成が出来るようになる時代であるが、制作の現場で日々行われている細かな修正作業は、まだ人の積極的な介入が必要である。本授業では、動画制作のための企画、撮影、編集等について総合的に学ぶ。映像制作の経験が浅い学生は、まずカメラの基本的な撮影技術と映像編集の基本知識の習得を目指す。3DCG分野においては、ソフトの基本操作を身に付け、最終課題ではアニメーション作品の制作を行う。	
	現代社会におけるストレスマネジメント		変化のスピードが速く、従来の考え方や行動様式が通じにくい現代社会においては、ストレスに対処する力がこれまで以上に求められる。本授業では、1) ストレスの定義とその特徴、ライフコースの中で生じるストレスについて知る、2) ICTツールを活用して現代社会におけるストレスの現状とその影響を分析する、3) 自分のストレスに気づく、4) 瞑想、呼吸法、自律訓練法、筋弛緩法、環境調整などのストレス対処法を体験する、という4種類の学びを通して、自己管理能力およびストレスコントロール力を高める。	
	情報化社会における消費者心理学		現代では、テレビやインターネットなど、様々なメディア媒体を通して、複数の情報を得ることができる。本授業では、消費行動に注目し、現代の情報化社会が消費に関わる人の心や行動にどのような影響を与えるのか、心理学的視点から取り上げる。具体的には、購買の意思決定、商品選択、商品関連情報の処理などの消費者の視点に加えて、商品の宣伝や広告、企業や商品のブランドイメージ、口コミなどの情報配信、消費に関わる社会問題なども幅広く扱う。	
	コミュニケーションの認知科学		言葉をはじめとする人間のコミュニケーションは、10万年単位のきわめて長い歳月を経て現在ある形にたどりついたものである。生物間のコミュニケーション、言語の系統進化的発達（サル、鳥等の「言葉」）、言語の生物学的基盤（脳と神経系）、個体発生的発達（子どもの言語獲得）、言語の身体接地問題、認知心理における記憶と知識、思考と概念、文脈によってかわる言葉、文章理解、比喩理解、噂と炎上現象、言語の障害（失語症等）、書字の発展、外国語学習と翻訳、AIによる言語処理等のトピックを通じ、言葉を中心としたコミュニケーションに対する理解と実践力を培う。	
	教育社会学		社会課題と教育政策、教育制度と子どもの状況、子どもの状況を踏まえた学校経営・制度、学校におけるリスクマネジメントとその実際という観点から「教育問題」とされている事象について検討する。その際、それらの問題に関わる身近な現象に対して、量的データ及び質的データの両面からアプローチすることにより、問題のリアリティを捉えていく。そうした過程を通して、当たり前だと考えられていることをクリティカルに問い直し、教育問題の解決方法を探る。	
	ことばのしくみ		ヒトの言葉の仕組みについて、言語学の考え方や理論的・実験的研究、分析方法を理解する。日本語や英語を中心とした様々な言葉自体の分析や比較によって言葉の構造について考えるだけでなく、ヒトがどのように母語を獲得していくのか、英語などの外国語をどのように学習・習得していくのかなどについても学んでいく。ヒトの言葉の処理（理解）とコンピュータやAIの言語処理や機械翻訳メカニズムを比較することで、その違いや共通点を分析する。	

翻訳応用		英語圏の文献を日本語に翻訳する作業においては翻訳者の知識や経験が大きな要素となっており、それらを人的なトレーニングによって時間と手間をかけて高めてきた。一方、現状は機械翻訳さらにはAIの力を借りてリアルタイムに翻訳をすることが可能になってきた。文学作品の翻訳については果たして計算機のパワーだけで同じレベルのことが可能かどうか、知識や経験のある人による翻訳との違いはどのような側面に現れるのかなどを比較検討する。	
英語教育とデジタル技術の活用		近年、AIやデジタル技術を用いた英語学習が急速に進化している。この技術的進歩は、英語学習方法に新たな展望をもたらし、多くの関心を集めている。本講義では、AIやデジタル技術を活用した英語学習の実践を通じて、自分の学習過程を振り返り、より自律した英語学習者に近づくことを目指す。また、デジタル技術を利用した英語教育の最新トレンドや研究成果、学習者要因についても探求する。さらに、デジタル技術の社会的影響や倫理的側面についても考察し、持続可能な英語学習環境の構築についても議論を行う。	
観光のデータ分析		観光関連のデータについて、Web上で情報収集し、AI等のデジタル技術を用いて分析し、読み解くための統計的知識と実践方法を学ぶ。観光について分析し戦略を立てるためにデータに基づくエビデンスが重要になってきている。JNTO、JTB、世界銀行などの観光データを実際に分析し、自分の興味ある国についての分析と考察を行う。また、官民のビッグデータを集約し可視化する地域経済分析システムRESASを使いこなして、自分が選んだ都道府県や市町村の日本人観光客・外国人観光客の人流や特性を分析し、観光による地域振興の政策を考える。	
マーケティング論		近年、観光地マーケティングの重要性が高まり、観光振興策を考えるためにデータの活用とマーケティングの知識が不可欠となっている。この授業では、4P分析、SWOT分析、行動経済学など、マーケティング戦略策定に必要な理論や、論理的思考のためのツールを学ぶ。マーケティング調査の方法やAIを活用したマーケティングについても学ぶ。最終課題では、実際に自分の好きな企業、店舗、地域などを取り上げてマーケティング分析を行いレポートを作成する。	
AI翻訳論		グローバル化やAIテクノロジーの発展は、多言語翻訳・通訳の分野でも大きな進化をもたらしている。特に日韓の文化・産業・人の交流は年々増加の傾向を見せており、最新のAI翻訳・通訳ツールの操作スキルを体得し訳の正確度・特徴を理解することで、ビジネス、観光交流、ウェブなどの諸場面で大量の情報処理や活用が可能となる。授業では、外国語の文字や文法構造を比較学習し、AI翻訳・通訳ツールやアプリなどを用いての翻訳・通訳の演習を行ってその活用術を学ぶ。	
3Dファッション演習		衣服制作を理解する上で大切なのは、人体とパターン（型紙）の関係である。基本的な人体の構成、洋裁用語や記号を解説し、デザインに合わせたパターン作成とその考え方を学習する。平面作図や立体裁断を具体的に解説し、アパレルCADを使用してパターンを作成する。さらに、3D着装シミュレーションソフト「CLO」を活用して、3Dバーチャル上で衣装制作を行う。ファッション業界の最新技術を活かしながら、クリエイティブな発想とデザイン能力を高めていく。	
メタバースファッション表現		メタバース空間とは何かを学び、その中で「ファッション」として実施可能な事柄について考察する。グループで討論を行い、与えられた仮想空間（メタバース空間）内でファッションに関わるショーや展示、販売などの行為の消費者に対する効果的な表現を考察する。グループ毎に規定のメタバース空間上に想定したものを表現しプレゼンテーションを行い、その効果について検証する。仮想空間とは何か、また仮想空間内でのリテラシーについてなど、2～3回は専門家を外部講師として依頼し、内容の充実を図る。	
社会変動と家族		わが国の家族および生活構造は、社会変動とともにこれまでどのように変化し、少子高齢社会を迎えた現在どのような状況にあるについて、歴史的かつ国際的な比較を加えながら解説する。本講義では、統計データ(国勢調査データおよび全国規模の無作為抽出標本データ)、文献・資料、視聴覚教材等を用いて、生活構造論、家族社会学、福祉社会学の視点から、個人・家族生活・地域社会の変化をとらえ直す。また、社会調査法および社会統計学の基本的な知識や具体的方法についても紹介する。	
社会保障施策の変遷と展望		社会保障施策は、世界各国において重要な政策に位置付けられている。社会保障の成り立ちや、発展過程を学び、現代社会における社会保障施策の意義を考える。各国のデータ比較から我が国の強みや弱みを理解し、政策課題について考察する。医療・介護・障害・子ども子育て等の各社会保障分野について掘り下げ、グループでディスカッションや全体共有（プレゼンテーション）等を交えながら、社会保障分野におけるライフデザイン能力を高める。	
保健統計学		医療や看護をはじめとする人々の健康を“衛る”保健医療領域で用いられる統計解析手法について、理論と実践を学び、社会生活における保健統計を見る基礎能力を身に付けることと、統計解析を遂行し、健康に関する報告能力を身につけることを目的とする。保健統計学の活用例として、データベースの理解、データクリーニングとデータ管理、平均値・割合の比較と信頼区間、一般線形回帰モデル、ロジスティック回帰モデル、生存時間解析、因子分析などを行う。	

専門基礎科目	ライフコースと看護		妊娠・出産から、育児を経て、壮年期・老年期に移りゆくライフステージにおいて看護の知識と視点を学ぶことで、日常生活におけるケアの重要性を理解し、生活の質（QOL）を高めるアプローチを考察していく。 （オムニバス方式／全15回） （13 豊川 智之／1回） （第1回）ライフステージと健康について疫学的解説 （46 石川 紀子／2回） （第2～3回）乳幼児期の成長発達を促す遊びの特徴と現代の子どもを取り巻く社会的問題（子ども虐待など） （25 久保 幸代／1回） （第4回）女性の発達段階における健康課題 （66 高倉 佐和／1回） （第5回）女性の健康課題に対するAI活用の将来的展望と課題 （47 加藤 星花／1回） （第6回）思春期青年期におけるネット依存・ゲーム依存とその対応 （61 寛 亮子／1回） （第7回）ライフステージと災害時のメンタルヘルス （96 吉水 清／1回） （第8回）DMATをはじめとする医療と災害活動 （48 河村 秋／1回） （第9回）保健指導と行動変容についての理論の紹介 （94 天谷 尚子／1回） （第10回）ICTを活用した地域医療 （49 前川 一恵／1回） （第11回）多様な生活環境と健康 （95 宮本 大樹／1回） （第12回）老年期における健康課題と認知症ケア （75 山下 菜穂子／1回） （第13回）老年期における健康課題と病気 （67 段ノ上 秀雄／1回） （第14回）医療の現場で使われている各種ICTの現状とシステム（医療安全、遠隔診療、ロボットによる遠隔手術） （62 熊田 奈津紀／1回） （第15回）地域における他職種連携と情報共有システム	オムニバス方式
	健康情報科学基礎	○	健康情報科学とは、人間の健康と福祉に関する問題を解明し、改善することを目的とする学問分野であり、健全なライフデザインを構築するうえで必要不可欠な内容を数多く含んでいる。この授業では、健康についての基礎知識を身体・心・運動・食生活等、多様な視点から紹介する。具体的に学習を進めるために毎回、個々人の実際の健康状況・生活習慣等の事例を取り上げて解説する。授業内で自己理解と他者理解を深めるために他の学生との意見交換も行う。	
	シミュレーション科学基礎	○	天候予測や交通システムの最適化など、日常生活を支えるシミュレーション技術を学ぶ。現代社会においてシミュレーション技術は様々な場面で使われており、シミュレーション科学について知るとは豊かなライフデザインの構築につながる。この科目では、様々なシミュレーション技術を紹介し、それらを実現するための基本的な技術や手法について学習する。シミュレーションの理解と応用を通じて、現実世界の複雑な問題を解決し、効率的で効果的な生活の設計に役立つスキルを身につける。	
	ライフデザインと日本茶		日本の伝統文化を代表し、私たちの生活にかかせない国民的飲料である日本茶について、茶の起源から、栽培、製造、化学成分、健康効果、茶の淹れ方、国内外での消費動向などを中心に、日本茶のすべてについて詳細に学ぶ。さらに、日本茶に関係する様々なデータを元に、歴史的な背景と照らし合わせながら、多角的な視点から検証し、食生活をはじめとするライフデザインと日本茶の関わりを深める。そして、日本茶の学びで得たすべての内容を他者に正しく伝承できるようになることを目指す。この科目の単位を修得することで、「日本茶アドバイザー資格」（NPO法人日本茶インストラクター協会が認定する資格）を申請することが可能である。	
	色彩の科学とデジタル技術		色彩の基礎理論、光の性質、色の心理的影響を学び、色彩調和の原則を探究する。デジタル技術を用いた色彩の測定と管理方法として、色空間やカラーキャリブレーションについても解説する。さらに、デジタルメディアにおける色再現の課題に触れ、デザインソフトウェアを活用した実践的な色彩デザイン技術も習得する。これにより、学生はデジタル時代における色彩の応用力を高め、実際のデザイン業務に役立つスキルを身に付けることができるようになる。また、最新のデジタルツールやテクノロジーの活用方法も学び、実践的なスキルを向上させる。	
専門教育科目				

		AIライフデザイン基礎演習	【授業科目名】AIライフデザイン基礎演習 ◆講義内容：「AI・ライフデザイン」に関わる幅広く多彩な研究内容を知ることで、今後の学習の指針を明確にし、4年次に取り組む卒業研究のイメージを構築する。 （オムニバス方式／全15回） （全教員／2回）（共同） （第1回）本学科で育成する人材像について改めて確認し、本科目の趣旨について説明する。 （第15回）様々な研究内容を知ったうえで学生自身が得た知見、今後の学習への取り組み方の指針、学生自身のイメージする将来像などについてまとめ、意見交換を行う。 （4 岡本 由希／1回） （第2回）食分野の学び全般に関連して、食品学的アプローチの種類と方法における基礎的な内容について説明する。 （1 鬘谷要／1回） （第3回）エネルギー消費の最適化や環境保護におけるAIの可能性について考え、持続可能な生活を実現するための技術について説明する。 （5 加藤 紫識／1回） （第4回）博物館資料、文化遺産、地域資料のデジタルアーカイブ化について紹介する。 （8 金子 伊樹／1回） （第5回）健全なライフデザインを構築するうえで必要不可欠な健康科学について、データ分析事例を紹介する。 （3 浅本 紀子／1回） （第6回）世の中を支える様々なシミュレーションの事例と、その裏にある技術について説明する。 （2 高梨 一彦／1回） （第7回）人の心の理解に関連して心理学的アプローチとしてどのようなものがあるかを基礎的な心理学の理論との関連で説明する。 （11 玉利 舞花／1回） （第8回）ファッションデザイン、繊維製品の機能性など服飾系の内容について説明する。 （13 豊川 智之／1回） （第9回）疫学的なデータ分析をもとに社会と個人の健康に貢献する研究事例について説明する。 （6 中込 真／1回） （第10回）理科教育を中心としたSTEAM教育を通じて、アクティブラーニングや映像教材の技術について紹介する。 （12 山下 まゆ美／1回） （第11回）栄養分野の学び全般に関連して、食と健康の関係を多角的にアプローチする方法について紹介する。 （7 早岡 英介／1回） （第12回）AIが創作の現場に導入されることでどのようにビジュアル表現は変化するのか、またAIと協働した創造とはどのようなものか考える。 （9 南 龍太／1回） （第13回）ニュースやブログの記事、SNSの投稿文にAIをどのように生かすか——。実効的な情報発信について事例を通じて学んでいく。 （10 川端 良子／1回） （第14回）人だけでなくコンピュータとコミュニケーションを行う際にも重要となる「共有信念」について、その役割を事例とともに紹介する。	オムニバス方式・共同（一部）
		小児の保健と心理	乳児期、幼児期、児童期までの子どもの精神ならびに身体の変化について概観し、それにとまなう主な保健上の諸問題、子育てを行う際に必要とされる医療・保健上の知識、さらに身体的および精神的な問題が生じた場合、子どもへの親やまわりの人たちのかかわり方の変化がどうなるのか、そのことによって子どもはどう発達・変化していくのかなどについてAIを含むデジタル技術と具体的なデータに基づいて現状の研究結果を踏まえて講義する。	
		映像心理学	人間は視覚から多くの情報を得ている。特に映像の形で視覚に提示される刺激に対してそれがどのように心に働きかけるのかについて多くの心理学的な知見がある。それらをもとにして映像の知覚の基礎理論、映像の認知の仕組み、映像がもたらす感情とその背景理論、記憶と映像との関係、映像メディアが社会へ及ぼす影響、メディアとしての映像を制作する際にどのような表現が効果的なのかなどの内容に関して心理学の基礎理論と関連して映像を理解し、かわる方法について示す。	
		心理学とAI	AIを活用することで多くの研究分野で変化が生じてきた。心理学領域ではAIによるシミュレーションを用いて複雑な思考の仕組みを解明したり、そのモデルを開発するなど有効性が明らかになっている。またAIとのインタラクションを経て人間の行動をより深く理解することが可能になってきている。この科目では著しいAI技術の進歩によってもたらされたそれらの成果を心理学との関わりを中心に説明し、今後の展望などを教授する。またそれらに関連する倫理的な問題やAIとの共存についても述べる。	

ライフリスクの疫学評価	○	日常生活で用いられるリスクの評価方法である疫学について学び、その視点と活用能力を高める。疫学の歴史、リスク評価に必要な前提条件、リスク評価研究デザイン、リスク評価指標の多様性と解釈、曝露評価方法、各種バイアスの理解、交絡因子の調整方法、敏感度・特異度の解釈、それらの計算方法を学ぶ。SNS上に流れるリスク情報やAIから得られるリスク情報の正確性を判断する能力と、正しい情報発信能力を高め、リスクコミュニケーションについて理解を深め、ライフデザイン学に基づく判断能力を高める。	
健康情報科学解析論		健康についての基本的な統計データ（年齢・身長・体重・平均寿命など）を解析し、その特徴を把握する方法を学ぶ。平均、中央値、確率などの基本的な統計手法を用いてデータを分析し、結果を整理・解釈します。また、グラフやチャートなどの視覚的資料の作成スキルを習得し、データの視覚化を通じて理解を深める。最終的には、解析結果を基にしたプレゼンテーションを行い、効果的な情報伝達方法を学ぶ。この授業を通じて、統計データの基本的な解析能力とその結果をわかりやすく伝える技術を身につけ、ライフデザイン学の基礎を確かなものにする。	
博物館とデジタルアーカイブ		文化芸術における調査研究活動の充実や、文化観光・地域活性化などの観点から、博物館に求められる役割は、年々多様化・高度化している。2022年に改正された博物館法では博物館の事業として「博物館資料のデジタルアーカイブ化」が追加された。この授業では、博物館資料のデジタルアーカイブ化およびインターネット等による情報発信の意義や課題を概説する。あわせてAIの活用によりデジタルアーカイブ化作業の効率化・人手不足解消の可能性を探る。	
文化遺産とデジタルコンテンツ	○	現代ではパソコンやスマートフォンなどの普及により、多くの人々が容易にデジタルコンテンツにアクセスできるようになった。また、2019年以降のコロナ禍では、外出制限や博物館の休館措置が続いたことにより、館内管理用に活用されていたデジタルデータやデータベースなどがオンラインで一般公開されるなど、博物館の現場ではデジタル対応が急務となった。この授業では、コロナ禍を経た博物館におけるデジタルコンテンツの種類、運用、利用、課題、今後の可能性などについて解説し、発信する側と利用する側の双方向の観点から、デジタル化社会の博物館に求められるデジタルコンテンツを考察し、ライフデザイン学の学びを深める。	
地域資料活用特論		2022年に改正された博物館法では博物館の事業として「博物館資料のデジタルアーカイブ化」が追加された一方で、博物館の現場では必ずしもデジタル化が進まない現状がある。その一因として、博物館が蓄積してきた資料情報や地域研究の成果をデジタル資料として整備、活用できるスキルが追いついていない点があげられる。この授業では、デジタル化が難しい非文字資料や民俗事象、古写真、地域資料などについて、収集およびアーカイブ化を進めるうえで技術的なハードルとなる点を概説し、解決策を探る。	
心理学とデータ分析		主に心理学研究における事実をとらえる測定方法のバリエーションとその理論、論文やレポート作成に必要とされる基本的な統計的手法に習熟することを目標とする。公開されているデータアーカイブや身近なデータを用い、（1）グラフなどで視覚的に理解する、（2）AIを含むデジタルスキルを用いて分析する、（3）視覚的な理解と統計解析結果との対照を通じて心に関わるデータの扱いにはどのような注意点や問題点があるかを理解し、ライフデザイン学の学びにいかす。	
健康情報科学解析演習		授業内で、身体・心・運動・食生活に関する健康行動のデータを記録・収集・解析する。解析手法としては、調査研究で用いられる基本的な統計解析手法（正規性の検定、二項検定、1標本t検定、2標本t検定など）を用いる。収集したデータは、既存のデータベースサービスを用いて記録・蓄積・比較分析し、その結果を考察する。さらに、グラフやチャートなどの視覚的資料を作成し、解析結果を効果的に伝えるためのプレゼンテーションスキルも養う。この演習を通じて、統計解析の実践力を高め、データに基づく健康行動の理解と改善に役立つスキルを身につける。	
食料資源の科学	○	私たちが日常利用する食料資源の科学的な基礎知識を身につけるために、植物性食品や動物性食品、微生物利用食品など幅広い食料資源の種類と特徴、生産方法、栄養素や機能性、利用法などについて詳細に学ぶ。さらに、日本は世界各地で生産された食品を輸入していることから、よりグローバルな視点から、食料資源の地域性や多様性についても概説する。そして、食料資源全般の学びを通じて日々の生活に活かせるように、ライフデザインにおける様々な場面での食品選択に役立てるなど食の知識を深める。	
フードシステム論		日本におけるフードシステムの歴史的な変遷や現状について学ぶ。多様な食品の特性を踏まえ、食品の一次製品の生産から消費に至るまでの全過程において、食品衛生、包装、保存、品質管理、表示、流通、マーケティングといった各段階について概説する。また食料の消費について、国内外の公開されている食料自給率などのデータを活用し、その推移と現状を分析・評価する。これらの学びを通してフードシステムの問題点を探り、具体的な解決策を討論し、持続可能な食の未来を展望する。	
ライフデザインと栄養		人の誕生から生涯に至るまで、年齢や心身の状況の変化に伴い様々なライフサイクルがある。身体的な成長、心理的な発達、社会的な役割が大きく異なり、性差や体格の違い、個人差など様々な要因によって、特に必要な栄養素や量は変化していく。本科目ではライフサイクルにおける心身の特徴とそれに対応した栄養の必要性や成長、疾病リスク、運動などの生活習慣との関連性を解説する。健康寿命の延伸を目標とし、より健康的なライフデザインの実現のために、日々の食生活にも活かしていくことを目指す。	

専門応用科目	食生活とライフデザイン	○	食や栄養の知識をもとに、食事記録を付けて栄養バランスをチェックするなど自分の食生活の現状を客観的に把握し、心身ともに健康なライフデザインの実現を目指していく。さらに、AI技術を活用して、AIチャットボットや栄養管理アプリなどにより、パーソナライズされた栄養アドバイスを活用したりAIが提案するレシピを活かしたりするなど、食生活の向上につなげていく。そして、食生活を通して他者とのつながりをライフプランニングに活かしながら、無理なく継続可能な自分らしい食生活をデザインする。	
	健康政策とライフデザイン		ライフコースにおける困難な状況に対してセーフティーネットや健康に関する社会補償政策が設けられている。医療保険制度や介護保険制度、生活保護、保健医療人材育成、地域づくりや地域包括ケアシステム、労働保健や精神保健、学校保健などの公衆衛生活動、健康日本21政策、特定機能食品、タバコの健康影響と規制、健康政策の決定過程について健康政策学的視座を理解し、実際の事例を通じて理解を深め、社会の多様性を理解し、よりよいライフデザインを提案する能力を身につける。	
	多変量解析とデータ活用	○	オープンデータや実際の研究で得られたデータを用いて、（1）パラメトリックな基本的アプローチ、（2）ノンパラメトリックなアプローチ（ノンパラメトリック多変量解析を含む）、（3）モデル生成的アプローチ（SEMを含む）、（4）パラメトリック多変量解析的アプローチ（独立変数および従属変数が量的変数および質的変数の場合を含む諸種の多変量解析）、（5）ベイズ統計的アプローチの5つの領域に関して数値解析を行い、結果の解釈と現実場面への応用を考え、ライフデザイン学に適用する。	
	生活科学のための分析ツール	○	代表的な分析機器（スペクトロメーター、クロマトグラフィー、マスマススペクトロメーター、MRI、CTなど）の基本的な使い方と応用方法を学ぶ。まず、各機器の基本操作を理解し、次にその応用方法を学ぶ。実践的な演習を通じて、分析結果の読み取り方とデータ処理のスキルを身につける。学生は具体的なプロジェクトを通じて、これらの機器を使った技術を実際に応用し、データの収集と解析を行う。最終的な目標は、これらの機器を効果的に使って、ライフデザイン学において科学的な問題を解決する能力を身につけることである。	
	シミュレーション科学演習		「シミュレーション科学基礎」で得た知識を基にした実践的な演習科目である。本科目では、実際に世の中で使われている様々なシミュレータを紹介し、実際に操作することでシミュレーションの基礎スキルを習得する。生活や産業で活用されるシミュレーション技術を理解し、それを問題解決や意思決定に役立てるための基本的な知識を深める。この科目を通じて、現実世界の課題に対応できる力を養い、豊かなライフデザインを構築するための実践的なスキルを身に付けることを目指す。	
	コンピュータグラフィックス演習	○	Photoshop、Illustrator、Shade等のソフトウェアを使って実践的な課題に取り組む。まず、Photoshopで画像編集や合成を学ぶ。具体的には、画像のトリミング、色調補正、レイヤーの操作などを習得する。次に、Illustratorでブランドロゴやパッケージデザインを制作し、ベジェ曲線やタイポグラフィの基礎を学ぶ。さらに、Shadeを使って3Dモデリングを行い、3Dオブジェクトの作成とレンダリングを学ぶ。これらの演習を通じて、各ツールの基本操作を理解し、実務に役立つスキルを身に付ける。最終的には、自分の作品を効果的に発表する能力を養い、プレゼンテーション技術も向上させることを目指す。	
	メディアコミュニケーション演習		マスメディア、ソーシャルメディア、デジタルメディアなど様々なメディアを活用したプロジェクトに取り組み、具体的なコミュニケーション戦略を立案・実施する。既存のメディアの分析を通じて、その特性や役割、社会的影響を評価する。ニュース記事の作成、ソーシャルメディアキャンペーンの企画、デジタルコンテンツの制作など、様々な形式で情報を効果的に伝達する方法を検討する。情報の信憑性を判断する演習を行い、フェイクニュースや誤情報の識別技術を高め、倫理的な情報発信の重要性について考察する。	
	機能性の評価とデータサイエンス	○	この科目では、データサイエンスの枠組みを使って衣服の機能性を評価する方法を学ぶ。特に、快適さ、耐久性、洗濯後の変化、通気性、防水性、温度調節機能など、さまざまなポイントに注目する。データを集めて分析し、これらの情報を使って衣服のデザインを改善する方法を学ぶ。これにより、快適で長持ちし、環境に優しく、どんな状況でも高い性能を発揮する衣服を作るための知識と技術を身に付ける。実際のデータに基づいた分析を通じて、消費者のニーズに合った高性能な衣服の開発を手助けし、持続可能なファッションを実現することを目指す。	
	地域共生とプロジェクトデザイン		地域住民をはじめ各ステークホルダーとのワークショップを運営し、地域づくりの計画立案から、問題分析と目的分析に基づいて、プロジェクトを立案・選択肢、プロジェクト評価、プロジェクト修正までのサイクルを演習する。政策決定過程に必要な統計値の推定についての理論や手技について統計学的演習を行う。政策立案に必要な文献レビュー、記者会見などのシミュレーションを行い、政策に係わる複合的な要素について理解を深める。	
	ことばと社会	○	ことばは、それを運用する人間と、その背景としての社会の影響を免れず、ことばと社会は常に有機的に結びつく関係にある。この授業は、ことばの観察をとおして、現代社会や地域社会の在りようを把握し、そこに内在する課題を見出すことを目的とする。言語変種、言語接触、言語変化、言語生活、言語意識といった社会言語学的トピックについて、各種社会調査・言語調査等のさまざまなオープンデータを活用して、実践的にことばと社会を分析する方法を学ぶと共に、社会課題の解決についても検討する。	

専門実習・実践科目	言語表現論		ことばは、運用の主体、地域、場面、媒体、時代等によって、その姿を多様に変える。この授業は、多様なことばの姿、文章・談話の特徴や文体を、言語計量の手法を用いて明らかにすると共に、表現の目的・意図との相関について分析することで、言語表現の本質について深く考えることを目的とする。主に、日本語を対象として、文学的表現（小説、随筆、韻文等。古典を含む）と実用的表現（伝達・報道、マニュアル、教科書、広告、評論、学術論文等）を幅広く収集し、AIを活用した言語解析とその統計分析をとおして、実践的にことばを分析する力、戦略的・効果的な言語表現を創出する力を身につける。	
	デジタルアーカイブ演習		この授業では、TEI、IIIF等の国際規格を含む、さまざまな情報共有・情報運用の方法を学ぶとともに、アーカイブ作業の効率化を図るためのAI活用法を身につける。また、コンテンツ開発を前提としたアーカイブ仕様の策定などを通して、デジタルアーカイブの利活用サイクルについて実践的に学び、大学関連施設（文化資料館・視友社文庫）所蔵資料のデジタルアーカイブ化およびそのコンテンツ化について企画・実施することで、デジタルアーカイブやデジタルコンテンツ作成のスキルを実践的に身につける。	
	AIライフデザイン演習Ⅰ	○	人文学（博物館、心理学）および家政学（食品学、栄養学）さらにスポーツ科学、シミュレーション科学や社会と家族に関係する健康、理科教育の枠組みや日常生活におけるAIの活用の主要な分野について、各教員の持つ専門的な背景を基にして、広くAIライフデザイン基礎演習での学びを経てより専門的な領域での課題を見つける。その課題に関して専門領域でのAIやデジタル技術を用いることで解決方法の見通しおよびその可能性に関して考究する。	
	AIライフデザイン演習Ⅱ	○	「AIライフデザイン演習Ⅰ」で学んだことをさらに深め、人文学および家政学さらにスポーツ科学、シミュレーション科学や社会と家族に関係する健康、理科教育の枠組みや日常生活におけるAIの活用の主要な分野について、各自の関心領域を定め、その領域に関してこれまでの専門科目での学びを土台として卒業研究へつなげるテーマを絞っていく。そのテーマについては指導教員との対話を通じてより深め、AIやデジタル技術をどのように組み入れてテーマの解決を探っていくかについて筋道を立てていく。	
	健康情報科学実践		健康についての身体・心・運動・食生活等の基礎知識を実生活に応用し、具体的な健康行動を実践する。学生は毎回、実践した健康行動を詳細に記録し、データを収集する。収集したデータは、既存のデータベースサービスを用いて記録・蓄積し、比較分析することで、自身の健康状態を客観的に評価する。さらに、得られた結果を基に考察を行い、個々の健康行動の効果や改善点を明確にする。このプロセスを通じて、科学的根拠に基づいた健康維持・増進の方法を学び、ライフデザイン学に基づいた実践力を高める。	
	ライフデザイン実践実習		農場などでの実践的な農業実習や、農業・食品関連施設の見学を行うなど、多角的な視点から農業と食のつながりを学ぶ。実習でのグループワークを介したコミュニケーション能力の向上とともに農業と食に関する問題解決能力を養う。各自が実習で体験したことを振り返り、自己評価、レポート作成やプレゼンテーションを行い、思考力や表現力を身につける。食の安全・安心、環境問題、地域社会との関わりなど、農業と食が抱える様々な課題について学び、持続可能な社会の実現への理解を深める。	共同
	メディアデザイン実習		メディアコンテンツの制作技術とデザインスキルを実践的に学ぶ。グラフィックデザイン、映像制作、webデザイン、インタラクティブメディアなど、様々なメディアフォーマットに対応したデザインの基礎と応用を学ぶ。学生は、デザインソフトウェアの使用法、コンセプトの立案から制作、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを実践し、創造力と技術力を磨く。視覚的コミュニケーションの重要性やユーザーエクスペリエンスの向上を目指したデザインの手法を探究する。	
	アプリ開発実習		日常生活の問題を解決するためのアプリケーションソフトウェアを自ら企画し、開発する。学生は、問題の発見から解決策の立案、アプリの設計、プログラミング、テストまでの一連のプロセスを学ぶ。最初に解決すべき課題を見つけ、それに対する有効な解決策を考え出し、アプリとして形にする。この実習では、実際に使えるアプリを完成させることを目標とし、その過程で実践的な開発スキルを身につけるとともに、問題解決能力を養う。	
	地方創生プロジェクト実習		地域活性化を目指した実践的なプロジェクトに取り組む。まず、地域の現状や課題を調査し、データを収集・分析する。次に、地域資源を活用した解決策を考案し、具体的なプロジェクトプランを策定する。これには、国が実施する地域創生に関するコンテストへの参加を前提とした提案も視野に入れる。実際のフィールドワークを通じて、地域住民との協力や関係機関との連携を図りながらプロジェクトを実施する。最終的には、成果をまとめてプレゼンテーションを行い、評価を受けることで実践力を養うことを目的とする。	
	データマーケティング実習		データを活用したマーケティングの基本概念と実践的方法を学ぶ科目である。データ収集、分析、インサイト抽出から、マーケティング戦略の立案と実施までを学ぶ。特に、小売業のPOSデータを活用し、顧客行動の分析や売上予測を行う。顧客データの分析、ターゲット市場の特定、データドリブンな意思決定の方法を習得する。実践的なプロジェクトを通じて、データを用いたマーケティングキャンペーンを設計・実行し、ライフデザイン学に基づいた卒業研究をまとめる際にいかす。	

	専門ビジネス科目	女性とキャリアデザイン		この講義では、女性のキャリア形成とデザインについて学ぶ。まず、キャリアデザインの基本概念を理解し、自身のキャリアビジョンを描くための方法を探る。次に、仕事と家庭の両立、ライフステージに応じたキャリアの変化について考察する。さらに、女性特有の課題や障壁を克服するための戦略を学び、ネットワーキングやメンターシップの重要性についても触れる。また、AI技術を活用したキャリア支援ツールの利用方法を紹介し、キャリアプランニングの効率化を図る。これにより、女性が自分らしく輝くためのキャリアデザインを具体的に考え、実践的なスキルを身に付けることができる。	
		ビジネスマナー		この講義では、現代のビジネス環境における基本的なマナーとエチケットを学ぶ。初対面の挨拶や名刺交換、メールの書き方、電話対応など、ビジネスシーンで必須のスキルを身に付ける。また、会議やプレゼンテーションでの効果的なコミュニケーション方法についても学ぶ。さらに、AI技術を活用したビジネスマナーの最新動向についても触れ、AIアシスタントを活用して業務を効率化する方法や、デジタルエチケットについて考察する。これにより、伝統的なビジネスマナーと最新技術の融合を図り、現代のビジネス環境で即戦力となるスキルを習得する。	
		プレゼンテーション		この講義では、効果的なプレゼンテーション技術を習得し、コンテスト応募を視野に入れた実践的なスキルを磨く。まず、プレゼンテーションの基本構造やスライド作成のポイントを学び、視覚的に魅力的な資料を作成する技術を習得する。次に、話し方や声のトーン、ボディランゲージを用いた効果的な伝え方を練習し、自信を持って話す力を養う。さらに、AIツールを活用してデータ分析や視覚化を行い、説得力のあるプレゼンテーションを作成する方法を学ぶ。最終的には、模擬コンテスト形式で発表を行い、フィードバックを通じて改善点を把握し、実際のコンテスト応募に向けた準備を整える。この過程を通じて、プレゼンテーションの全体像を理解し、高い説得力と魅力を持つ発表を目指す。	
		ビジネス・インターンシップ		学生が実際の企業で短期間のインターンシップを経験し、職場環境や業務内容を体験することを目的とする。まず、参加する企業の概要や業界の動向について事前に学習し、必要な知識を身につける。次に、実際のインターンシップでは、企業の現場での業務に参加し、実務を通じて職業意識と職業スキルを向上させる。インターンシップ終了後は、学んだ内容をまとめ、成果発表を行い、自己評価とフィードバックを通じて成長を確認する。この科目を通じて、学生は実務経験を積むとともに、将来のキャリア選択に役立つ実践的なスキルと知識を身につける。	
	卒業研究	卒業研究	○	本科目は最終学年に行われる集大成のプロジェクトである。ここでは、学生はこれまでの学びと経験を総動員して、自ら設定した研究テーマに深く取り組む。教員の下で、自主的かつ独立的に研究やプロジェクトを進める。テーマは各自の興味やキャリア目標に応じて選定される。計画立案から結果の報告まで一連の経験を積むことを通じて、論理的思考力や問題解決能力、コミュニケーション能力も強化され、将来のキャリアに直結するスキルを身につける。	

学校法人和洋学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
和洋女子大学				
人文学部				
日本文学文化学科	110	0	440	
心理学科	60	0	240	
こども発達学科	70	0	280	
国際学部				
英語コミュニケーション学科	60	0	240	
国際学科	60	0	240	
家政学部				
服飾造形学科	60	0	240	
健康栄養学科	120	0	480	
家政福祉学科 (新規)	110	0	440	
看護学部				
看護学科	100	0	400	
計	750	0	3000	
和洋女子大学大学院				
人文科学研究科				
英語文学専攻(M)	5	0	10	
日本文学専攻(M)	5	0	10	
総合生活研究科				
総合生活専攻(M)	8	0	16	
総合生活専攻(D)	3	0	9	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	0	12	
計	27	0	57	

平成8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
和洋女子大学				
AIライフデザイン学部				学部の設置
AIライフデザイン学科	80	0	320	(届出)
人文学部				
日本文学文化学科	100	0	400	定員変更(△10)
心理学科	70	0	280	定員変更(10)
こども発達学科	70	0	280	
国際学部				
英語コミュニケーション学科	50	0	200	定員変更(△10)
国際学科	50	0	200	定員変更(△10)
家政学部				
(削除)	0	0	0	令和8年4月学生募集休止
健康栄養学科	120	0	480	
(削除)	0	0	0	令和8年4月学生募集休止
生活環境学科	110	0	440	学科の設置(届出)
看護学部				
看護学科	100	0	400	
計	750	0	3000	
和洋女子大学大学院				
人文科学研究科				
英語文学専攻(M)	5	0	10	
日本文学専攻(M)	5	0	10	
総合生活研究科				
総合生活専攻(M)	8	0	16	
総合生活専攻(D)	3	0	9	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	0	12	
計	27	0	57	